

PV-Net News

第13号



PV-Net News第13号 2007年2月23日発行 ■発行人：藤井石根 ■編集人：都筑 建 ■発行所：NPO法人 太陽光発電所ネットワーク 〒113-0034文京区湯島1-9-10-202
 ■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail: info@greenenergy.jp TEL: 03-5805-3577 ※記事および写真等の無断転載は固くお断わりいたします。
 ■インターネットでも情報をご覧ください。www.greenenergy.jp ■印刷：豊印刷(株) ■レイアウト：八木澤晴子 ■編集協力：(株)NOBOX

※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。
 太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

CONTENTS もくじ

1 PV-Greenの展開

第1部 佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業のいま

2

第2部 自然エネルギーで街を灯そう！ Marunouchiイルミネーション・グリーン化キャンペーン始動！

3 PV-Netレポート

「相談員研修会」開催報告

4 特集1

動き始めたソーラー・マイレージクラブ事業

6 特集2

太陽光発電所長の知恵、結集イベント！
 ～「こんなにある！ 太陽光発電を通じた省エネルギーライフのコツ」を開催しました～

10 PV-Net最前線

山梨地域交流会、県から自然エネルギー普及促進事業を受託

11

山梨地域交流会、グリーン電力基金助成事業として山梨県北杜市の公民館に太陽光発電を設置

12 各地の発電量データと太陽光発電所マップ

14 会員の広場

16 活動報告 地域の動き

22

理事会&部会報告

24 事務局からのお知らせ 活動カレンダー

COLUMN コラム

11 イベント出席報告

21 PV-Net川柳 第十一回

PV-Greenの展開

第1部 ★ 佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業のいま

■事業への取り組み

「佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業」は、厳しい企画コンペを経て、PV-Netが昨年6月に委託を受け、8月に募集が開始されました。

グリーン電力証書活用の大型事業はPV-Netとして初めての取り組みです。試行錯誤しながら地元の受け皿である佐賀地域交流会の充実、事務所の開設、説明会実施、と突き進んできました。「環境価値」を佐賀県内で一般化する意義の大きさを知るとともに、それを周知し、目標である1000件PV増加達成の困難さの克服に邁進しています。

■応募状況

当事業の募集は昨年8月に始まり、第2回の申込み締め切りが12月に迫ってきているにもかかわらず、事業への参加申請の数が全国的な個人住宅太陽光発電販売低調のなか、伸び悩んでおり、この状況の打破をめざして「ユニーク太陽光発電所コンテスト」を実施することにしました。

スタートしたばかりの佐賀地域交流会ですが、PV-Net本部事務局と九州広域地域交流会の強力な

バックアップがあり、一体となったコンテストの実施に到りました。

■コンテストの概要と結果発表

本選大会に先立ち、12月16日に武雄市文化会館で、また12月17日に佐賀市のアバンセでと、県内2会場で予選会を実施。年が明けて1月21日に、本選大会を佐賀市にあるメイトプラザさがで行いました。

結果は、3賞として「ユニーク賞」に久間泰隆さん、「環境貢献賞」に森潤一郎さん、「普及貢献賞」に山口征也さん、そして総合点トップの森潤一郎さんが「太陽バイオニア賞」に選ばれました。

賞品として、3賞にはそれぞれ「エネループ電池充電器」、太陽バイオニア賞には環境にやさしくて暖かい「つかいすてないカイロ」を贈呈。また、発表者全員への参加賞として、西森園でとれたばかりの新鮮なみかんが贈られました。

最後に、参加者60名を前に都筑建事務局長から表彰状が渡され、コンテストは大成功裏に閉会しました。年度末内1,000件達成に向かって、佐賀はガンバっています。(佐賀地域交流会 西森秀夫・中山晴美)

第2部 ★ 自然エネルギーで街を灯そう!

Marunouchiイルミネーション・グリーン化キャンペーン始動! ～エネルギーを選べると、街が、未来が変わります～

■ 前代未聞の試み

「街を灯すイルミネーションの電力を、街の住民の力でグリーン化しよう!」今回のこのキャンペーンは前代未聞の試み。イベント主催者の協力を得て、イベントを楽しむ人々、街に働く人々、訪れるみなさんの「グリーン電力証書の購入」を通じた参加によって、街を灯す電気をグリーン電力で賄おうと、挑戦が始まりました。100%グリーン化が成るかどうか? 舞台は東京・丸の内エリアです。

■ 一口20kWh/300円、13本の街路樹からはじめよう! Marunouchiイルミネーション・グリーン化キャンペーンとは……

冷たい冬の夜を美しく灯すイルミネーション。でも、私たちの目を楽しませると同時に電力を消費し、地球温暖化を進める一因にもなっています。そこで始めたのが今回のキャンペーン (Marunouchiイルミネーション・グリーン化キャンペーン実行委員会主催)。PV-Netは、企画段階から関わり協力しています。

グリーン化の対象は、「光都東京☆LIGHTOPIA2006 (※1)」、「丸の内イルミネーション」(丸の内仲通り)における消費電力量計約8万kWh。これを20kWhの細切れにし、一口300円からのグリーン電力証書の購入を呼びかけています。20kWhは、13本の街路樹を1時間灯すのに必要な電力に相当します。

キャンペーン期間は、2006年12/12から2007年2/28まで。太陽光(東京産)と風力(秋田産)とが選べ、PV-Netは太陽光のグリーン電力証書を発行します。東京産の太陽光のほうに人気があるのは、やはり地産地消的なサポートの気持ちが働くからでしょうか。

※1 “ミレナリオ”に替わる光のイベント。
監修・石井幹子照明デザイナー

■ 狙いは「地域力と参加と体感」

直接の狙いは8万kWh分の電力をグリーン化すること。これを地域の人々の参加と協力で実現し、環境とエネルギーに配慮した街を、一緒につくろう!との思いがあります。地域の協力で、証書の右半分は地区内の飲食店10店舗で利用できる地域通貨的な50円のエコクーポン券になっています(図1参照)。グリーン化に貢献した街の住民はご褒美をもらえ、街の回遊性は増す、地域力と参加を推進するスグレモノの仕掛けです。

8万kWhを、20kWhから、4,000人の力でグリーン化しようとのこの試み。細切れにされたグリーン電力証書の購入を通して、グリーン電力と縁のなかった方に、電気を選べることを体感してほしい、との狙いもあります。グリーン化の状況を、割合(%)と、オレンジからグリーンへの色の変化で、随時ホームページ上で表現することで、参加したみなさんの体感を促したいと可視化しています。⇒ <http://www.ecozzeria.jp/ecoillum/>

●図1 Marunouchiイルミネーション・グリーン化キャンペーンのグリーン電力証書 (個人に環境価値は移行しません。)



■ グリーン化に参加しよう!

以下の3つの形で参加できます。

(1) イベントに参加

参加費にグリーン電力証書協力が含まれます。

・2/19 19:00-21:00「グリーンな音と光ですごす丸の内冬のゆうべ」
会場: 大手町カフェ

(以下は既に開催されたイベント)

・12/21 グリーン電力セミナー「グリーンなあかりで灯すこちよい街」
会場: 大手町カフェ

・12/26～30「スノーメール2006」
会場: 丸の内OAZO おおひろば

(2) 店頭の募金箱へ

設置場所: 大手町カフェ (大手町ビル)、カフェease (丸の内ビル)、丸の内カフェ (新東京ビル)

カウンターの募金箱設置場所で証書を購入できます。

(3) 特設口座への振込み

—郵便振替—

口座番号: 00130-2-68026

加入者名: FoE Japan

※通信欄に「太陽光〇〇、風力〇〇」と電源及び口数をご記入ください。証書は、通信欄に記載の住所に郵送されます。

■ グリーン化状況

12/21のイベントでの販売1,020kWh (15,300円)、1%を皮切りに、1/12現在、12,720kWh (190,800円)、15.9%のグリーン化状況となっています。みなさんも、グリーン電力証書の販売アイデアを是非お寄せください。

(事務局 手塚智子)

●表1 PVグリーン電力証書販売状況 (2006年11月～2007年1月)

購入者	地域指定	活用先	kWhpvg
(1) 掛川市環境課	静岡	平成18年度掛川市新エネルギーフォーラム	1,020
(2) 甲府市環境リサイクルフェア実行委員会	山梨	第8回環境リサイクルフェア	500
(3) 丸の内イルミネーション・グリーン化キャンペーン	なし	スノーメール2006景品分	1,330
(4) 丸の内イルミネーション・グリーン化キャンペーン	東京	2006年12/21～2007年1/12分まで	6,620

PVグリーン電力証書販売状況

2006年11月から2007年1月までのPVグリーン電力証書販売状況は表1の通りです。



「相談員研修会」開催報告

昨年11月18日に、産業技術総合研究所 (以下、産総研) 太陽光発電研究センター主任研究員の加藤和彦氏にお願いし、所内の太陽光発電実験設備を使って研修会を行いました。関東・関西・九州から相談員15名が参集し、実際に稼働している太陽電池パネルを前にした説明や、不具合を起こしているモジュールの動作状況やホットスポットの確認、I-Vカーブの測定など、個人ではできないことを実際に体験することができ、参加者からは大変勉強になったという声が多数ありました。参加した相談員によるレポートと感想をお届けします。 (相談室副室長 本多一民)



研修内容のひとつ、ホットスポットの測定

【研修内容】

①産総研内太陽光発電実験設備の紹介

<メガソーラタウンの概要>

・太陽光発電: 869kW (4kWシステム×211台)
・費用: 約8億円
・運用開始: 2004年4月

・特徴: 国内主要太陽電池メーカーのシステムを網羅し、種々の太陽電池モジュールを採用、多様な設置形態(地上、屋上、駐車場屋根、壁面等)、系統的なデータ計測と研究への活用(性能評価、長期信頼性等)

②太陽電池とそのトラブルの概要

・太陽電池の製造方法(結晶系、アモルファス・薄膜系)の解説と特徴、表面の色と反応する波長(色好み)について。
・実際の設置状態での発電量は“標準状態”で測定された定格発電量の70%が目安。“標準状態”とは「日射量: 1kW/m²」「エアマス: 1.5」「太陽電池温度: 25℃」
・太陽電池特有の不具合であるホットスポットは陰、断線、樹脂剥離等から部分的に高温になる現象であるが、初期のものは目視で発見困難。発見にはサー

■参加者の感想

参加者から寄せられた感想を順不同で紹介します。
・初めて産総研を訪れ、とても広くて、でっかい。その敷地内に太陽光発電が分散していることもあり、これがメガソーラとは思えませんでした。ビルの上から全体を見て大きさがわかりました(パネル総面積サッカー場一面分; 約6500m²)。
・いままで断片的に聞いたり学んだりした知識が講師のお話で繋がっていき、系統的に整理できた。
・今回は実際の測定が見られ、試験方法などがわかり、いままでは話を聞くだけだった事柄を体験することができ、今後の相談活動に活用したい。
・実際のホットスポットをサーモグラフィの観測で目の当たりに見て、これは決定的な武器になると思った。モジュール上の不具合はほとんどの場合ホットスポットになるから、不具合の有無やその場所が的確にわかる。離れた場所から感知でき、調査が容易になる。
・講師の明るい冗談まじりで楽しい講義であり、九州

モグラフィが有効である。また電圧、電流を測定することで異常は見つかる。

③産総研内実験設備の見学と設備を使っての観測・計測実習
・実際に不具合を起こしているモジュールやホットスポットをサーモグラフィで観測。
・I-Vカーブ(電流・電圧特性)の測定と陰によるI-Vカーブの変化の確認等々。

④PVレスキューの現状、成果と課題

・「PVのメンテナンスを如何にしたら良いか」を目的に活動開始。現在、58件の申し込みがあり、32件の予備調査終了、3件のデータ計測完了。
・いままで「コネクタ接続不良」「モジュール機能不全」「パワコンの頻繁停止、出力急落」などが確認されたが、問題あるシステムはデータ計測しなければ何もわからない。
・実施にあたって資金面でのバックアップが必要か。

⑤相談員よりの相談事例紹介と意見交換(加藤氏からも積極的なコメントあり)

(石渡饒一、都筑修三)

のメンバーも加わった有意義な一日でした。

・PVレスキュー活動はむしろメーカーがやるべきだと思うが、現状では難しいようだ。だから調査結果を早くまとめ、その有効性を知らしめられるよう、PV-Netとしても支援すべきだと思う。
・故障の場合、メーカーの対応は交換で済ませられ、原因の説明がされないケースが多いとのこと。今後はPV-Netが立ち会って個々の事象を明らかにするようメーカーに求め、これらの事例を多く集めてPVについてのより詳しい見識を得るようになるべきだと思う。
・パネルにもホットスポットの発生等で今後経年劣化が予想されます。設置者に対して業者やメーカーの説明不備があることを実感しました。少なくとも相談員はこのことを十分伝える必要があると思う。
・商業によるイメージと実際の性能の違いや不良のパネルの実験がユニークでした。
・トラブルにあたっては最初の現場保存が大事なことや、状況の写真などが重要である。

(湯浅直樹、小西健司、川原山浩一、森純男)

特集1 動き始めたソーラー・マイレージクラブ事業

節約は貯めること。省エネルギーがCO₂削減量を貯めます。家の構造を省エネタイプにし、使用するエネルギー変換機の効率を上げることは、大きな省エネ効果をもたらします。さらにPVは環境に負荷を与えない分、CO₂を削減します。この2つの要素を合せてソーラー・マイレージとして貯め、それを活用する試みが始まりました。

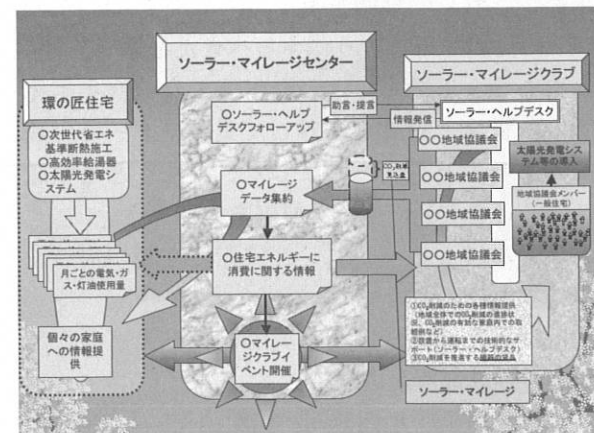
貯蓄（マイレージ）の活用を知恵を使うのが肝心ですが、その前にPVの家庭のCO₂削減量を求めます。実行部隊の6地域協議会も決まり、PV-Netが環境省から受託し事務局を務めるソーラー・マイレージクラブ事業が始動しました。

■ 事業の概要

太陽光発電等の省エネ設備の導入と生活面での省エネの工夫を組み合わせることで、一般家庭から排出される二酸化炭素（以下CO₂）量を減らし、減らした分のCO₂排出量をソーラー・マイレージとして換算していく取り組み「ソーラー・マイレージクラブ事業」が動き出しています。この事業はCO₂排出量削減の効果が期待される太陽光発電設備等の設備導入や種々の省エネルギー対策を一般家庭へ普及啓発する『地域協議会（ソーラー・マイレージクラブ、以下、SMLC※1）』と、SMLC事業実施のための基本的な情報収集体制の整備等を行い、地域協議会の普及活動を支援するSLMCの『情報センター（以下、センター）』とが連携して実施します（図1参照）。

事業は約3年間の予定ですが、協議会及びセンターそれぞれの実施主体は毎年企画公募で選定されます。平成18年度のセンター業務はPV-Netが受託。来年度以降も挑戦する事業と考え、今年度は土台

●図1 ソーラー・マイレージクラブ事業の概念



を固める作業を進めています。

※1 「地球温暖化対策の推進に関する法律」（平成10年法律第117号）第26条第1項の規定に基づき、地方公共団体、都道府県地球温暖化防止活動推進センター、地球温暖化防止活動推進員、事業者、住民等の各階各層が構成員となり、連携して、日常生活における温室効果ガスの排出抑制等に関し必要となるべき措置について協議する場として組織したもの。

■ 普及啓発事業の実施6団体が採択

昨年度末、地域協議会として6団体が採択されました。各団体ともいままで行ってきた活動の特性を生かしながら、目標値として掲げたソーラー・マイレージ量を達成するため、新たな普及啓発事業を考えています。一般家庭へ省エネ設備の導入を促し、技術的側面からCO₂排出量の削減を実施すること、そして、生活面でも省エネ意識を高めていくことが事業のポイントとなっています。

以下に6団体のプロフィールと事業内容を簡単にご紹介します。

※①地域協議会名称 ②地域協議会を構成する主な団体 ③活動対象とする地域 ④促進する省エネ設備 ⑤設備導入及び省エネルギー生活への具体的普及啓発方法 ⑥その他普及啓発方法 ⑦期待する効果

(1)①F・S・C（ファミエス・ソーラー・サークル）②セキスイファミエス熊本 ③熊本県全域 ④太陽光発電（以下、PV）システム、エコキュート、IHクッキングヒーター、高気密高断熱住宅、ペアガラ

ス ⑤省エネタップの配布による啓蒙、光熱費シミュレーションの実施等 ⑥マイレージ通信の発行（月1回）、活動報告会、PVシステム設置住宅の見学会等 ⑦SMLCへの参加を通して会員のみならずその周りの人にも地球環境保全活動が広がっていくような効果を狙う。

(2)①地球環境防衛隊 ②セキスイファミエス九積 ③佐賀県全部・福岡県南部 ④PVシステム、エコキュート、IHクッキングヒーター、高気密高断熱住宅、ペアガラス⑤省エネタップの配布による啓蒙、光熱費シミュレーションの実施等 ⑥マイレージ通信の発行（月1回）、活動報告会、PVシステム設置住宅の見学会等 ⑦イベント等を通してSMLCへの参加者のみならずその他の人も活動に参加したいと思わせる効果を狙う。

(3)①エコライフタウンみさと公園スキップ・フィールズ ②パナホーム株式会社 ③関東・中部地域 ④エコキュート、IHクッキングヒーター、PVシステム ⑤省エネ型ダウンライトの導入 ⑥省CO₂対策に関する各種情報をSMLC会員へ発信 ⑦参加各世帯に8～10年ランプ交換不要の省エネ型ダウンライトを導入し、省エネ意識の推進を行う。

(4)①富山に太陽光発電を広げる会 ②北陸の快適な住まいを考える会 ③富山県 ④PVシステム、高断熱高気密住宅 ⑤省エネ対応の住まい方や省エネ設備機器について省エネ実績データを配布し説明を行う ⑥環境に配慮した住宅や施設の体験見学会の開催。富山の気候風土を

踏まえた省エネ方策の情報提供。セミナー、講演会の開催 ⑦富山という気候条件が厳しい地域における環境に配慮した住まい方について、自然エネルギーの有効活用例や省エネ設備の効果について実績のデータを蓄積、示しながら普及活動を行う。

(5)①PV-Net関西地域交流会 ②同左 ③関西一円 ④PVシステム（系統連系形、独立型） ⑤独立型PV、省エネナビ、エコワット等の貸与 ⑥PV基礎講座、PV工場・PV設置住宅見学会、勉強会、参加者交流会等の開催 ⑦独立型PVシステムを貸与し、電気をつくる楽しさと方法、応用を学び、知恵を共有していく。省エネツールも貸与し、目に見える形で生活をチェックする。

(6)①NPO法人いちかわ地球市民会議 ②同左 ③千葉県 ④PVシステム ⑤省エネタップの貸与、省エネポットの導入補助 ⑥「太陽光発電システム」セミナーの開催、省エネ機器紹介や普及に努める ⑦正しい知識のもとでPVを設置してもらい、省エネ機器を併用することでより効果のあるCO₂削減を実践してもらう。

※ソーラー・ヘルプデスク（PV等に関する相談事業）はPV-Net千葉地域交流会が担う。

●図2 関西地域交流会のお知らせ

以上の6団体は上記の普及啓発事業のほか、必ず取り組みを行うことが決められている、以下の事業も併せて行うことになります。

- ①ソーラー・ヘルプデスクの開設（PV等の相談）
- ②ソーラー・マイレージデータの収集、センターへの報告（クラブ参加者のエネルギー消費量）
- ③センターが開催する全国イベントへの参加

■ 地域協議会とセンターの動き

地域協議会は12月の採択後、「ソーラー・マイレージクラブ」として動き始めています。九州2地域は既にマイレージ通信を発行して地球温暖化防止を呼びかけ、2月上旬には参加者交流会を開催。富山では2月25日に射水市長を迎え、地球温暖化防止対策についての講演会及びパネルディスカッションを開催します。また、PV-Net関西地域交流会は今日までの活動土台をフルに生かして太陽光発電所見学、独立系パネルの勉強会など様々な企画が目白押しです（図2参照）。

SLMC参加者は、情報交流会や勉強会などを通して実践の中で得た知識を効果的に生せる場を得ています。お互いを刺激しあいながら省エネ意識の底上げを図り、一般へもその波及効果を広げていくことが期待されます。

現在、センターでは毎週木曜日、PV-Net事務局でソーラー・ヘルプデスクを開設しています。今後は各地域協議会から届けられるソーラー・マイレージを取りまとめ、そのデータから省エネへの取り組みに有効な情報を広く一般へ発信していきます。また、地域協議会同士が情報交流しながら刺激しあえるような関係が作りだされるような働きかけを行っていきます。

■3/24にソーラー・マイレージクラブ全国イベントを開催します！

SLMCに参加した地域協議会や個人が、取り組みの成果を発表する全国イベントが下記の通り開催されます。

◎日時：3月24日（土）
13:30～16:30（開催時間は予定）
◎会場：主婦会館プラザエフ
地下1F クララルテ
◎主催：太陽光発電所ネットワーク（SLMC事業・センター）

◎プログラム（予定）：個人の取り組み事例紹介及び表彰、地域協議会の成果発表、ソーラー・マイレージ分析結果発表、基調講演

全国から省エネの達人が集まるイベントです。みなさんお誘い合わせの上、是非会場へお越しください。（事務局 伊藤まき）

■ 関西の取り組み

SLMC事業についてはわかりにくかったのですが、PV-Netの活動資金が滞っている今年こそ、何らかの手を打つ必要を強く感じ、申し込みました。採用が決まったのが2006年12月29日。翌年3月31日までに実行完了しなくてはならない厳しいものですが、企画の中心はCO₂削減に貢献するPVの普及・拡大で、我がPV-Netがいつも取り組んでいることです。具体的には独立型のパネルの貸し出し、ヘルプ事業、見学会、フォーラム、アンケートを行います。

長年行きたいと思いながら費用を考え実行できなかった見学旅行も実現できそうです。ポツポツ集まりはじめていたアンケートでも、それぞれのPV設置者が、自分たちの思いを伝えたいと感じ、「PV設置者が増えたら良い」と答えてくださっています。このSMLC事業をきっかけに「関西はブレイクするぞ」と、うれしい予言をしてくださった組織部の方のことが本当になればと切に願っています。

（関西地域交流会 岸本康子）

特集2 太陽光発電所長の知恵、結集イベント！

～「こんなにある！ 太陽光発電を通じた省エネルギーライフのコツ」を開催しました～

恒例の太陽光発電所長大集合イベント、今年は、PV-Netの地域活動や会員活動を持ち寄るこれまでの企画から、テーマを「カーボンフリーライフ」報告交流としました。テーマを省エネルギーライフに絞ったのです。さすがにPV-Net会員！素晴らしい実践報告がなされ、充実した交流になりました（12月2日在日本韓国YMCAアジア青少年センター：お茶の水にて開催）。イベントは、環境再生保全機構「地球環境基金」による助成活動「太陽光発電を通じた省エネルギー型ライフスタイル普及啓発事業」の一環です。この事業は3年越しの企画です。来年、再来年と省エネライフをベースにしますが、太陽光発電等自然エネルギーや省エネルギーに関心を寄せる市民、PV-Net会員の活動交流を豊かにしていく第一歩になりました。

■ イベントの概要

第1部では「太陽光発電の魅力と可能性」として、太陽光発電と防災プロジェクトの経過、群馬、関西各地域交流会主催の発電所見学ツアーの様子が発表されました。

第2部がメインの「太陽光発電を通じた省エネルギー」。第3部では「太陽光発電から見える新しい社会」として、高まる太陽光発電の社会的位置づけや、太陽光発電のグリーン電力証書(PV-Green)事業の新たな展開である、佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業、丸の内イルミネーショングリーン化キャンペーンが紹介されました。

以下、メインの第2部で行われた「エネルギー消費に関する実態調査(PV-Net実施)」の結果発表と省エネトップランナーのみなさんの事例発表の内容、「PV設置オール電化住宅のエネルギー消費実態と省エネ」研究報告をダイジェストでお届けします。

■ 「エネルギー消費に関する実態調査の結果」

——神奈川県秦野市 岩瀬泰徳
カーボンフリーライフの基礎データとして、PV-Net会員を対象にエネルギー消費実態調査を行った。その結果、会員の省エネルギーに対する意識は高く、「無駄な電気を使用しない」「エコドライブ」といった省エネ行動が実践され、実施率は全体で70%近くに達した。

このようなエネルギーに関する会員の高い意識を反映してか、会員家庭の世帯人員一人当たりエネルギー使用状況(図1参照)やCO₂排出量(図2参照)は平均的世帯と比較して低くなっていった。一方で、オール電化住宅と非オール電化住宅で会員家庭を比較すると、オール電化住宅でCO₂排出量が高くなっており、せっきくのPVの効果が減じられている。

PV設置家庭といえどもオール電化住宅では電力の省エネを強く意識していく必要性が認められた。

そのためにも平均的世帯よりエネルギー消費の少ない半数以上の会員家庭(トップランナー)が持つ省エネノウハウを顕在化し、PV所有者全体で共有していく重要性が確認された。

■ 事例1「環境を意識した生活」

——愛知県春日井市 吉田幸二
私は「サラリーマンでもできる環境を意識した生活」ということで発表させていただきました。内容は「太陽光発電の導入の経緯」「環境を意識した生活(家電編)」「環境を意識した生活(住環境編)」の4つ。そのうち、家電編では省エネタイプの電化製品の選択、節約編では生活の中で実践している事項、住環境編では結露防止と暖房効果のアップの方法について紹介させていただきました。

PV-Netの大イベントへの参加は今回が初めてでしたが、非常に有意義な時間が過ごせました。たくさんの方の前で発表するという機会はこれまで勤務先でもなかったのが緊張しましたが、なんとか予定時間内に終了し、みなさんから笑いや拍手もいただき、ほっとしました。また他の参加者の発表内容や発表方法なども非常に参考になり、今後活かしていきたいと思いました。

■ 事例2「エコワットによる節電対策—“出るを制する”にも、目を向けよう！」

——東京都日野市 柳瀬仁茂

1.目的
CO₂の削減には太陽光による発電ばかりでなく、節電も同程度に有効と考え、掃除、洗濯などの家事作業で消費される実用上の電力量を、東光精機(株)製簡易型電力量表示器T3T-R型(商品名：エコワット)を用いて計測した。

2.結果
測定数が少ないので有意差検定は行っていないが、以下の傾向が見られた。

1) 掃除
わが家の場合、消費電力の大きなクリーナーは必要なく、『小さなクリーナーを【弱】運転する』ことで省エネできることがわかった(表1参照)。

●表1

掃除場所(m ²)	和室、広縁(25.2)		床(40.4)		和室、床(50.5)	
	強	弱	強	弱	強	弱
運転モード	8~10	9	16~17	16~17	13~17	13~17
所要時間(分)	0.14~0.16	0.04	0.03~0.04	0.13~0.17	0.13~0.16	0.13~0.16
消費電力量(kWh)	3~4	1	1円未満	3~4	2~4	2~4
電気代(円)						

2) 炊飯
『一回の炊飯量は多く、炊飯回数は少なくする』ことが、省エネになる結果だった(表2参照)。

●表2

炊飯量	所要時間(分)	消費電力量(kWh)	電気代(円)
300g(2合)	91	0.16	4
600g(4合)	90	0.18	4

3) 洗濯
表3は被洗濯物量を変えて洗濯した結果であり、当然のことながら、その多いほうが洗濯時間が

●表3

運転モード	所要時間(分)	消費電力量(kWh)	電気代(円)
自動	33	0.06	1
	57	0.10	2

●表4

運転モード	浸け置き時間(分)	所要時間(分)	消費電力量(kWh)	電気代(円)
自動	0	25	0.03	1
	120	120+26	0.04	1

長く、消費電力量は多かった。
次に、汚れの著しい場合に推奨されている「浸け置き(給水後、一時停止120分)」の影響を調べたところ、「浸け置き」洗浄しても消費電力量は大きくないとみなされた(表4参照)。

■ 事例3「太陽と風と仲良く暮らす」

——神奈川県横浜市 山田玲子
わが家のエネルギー使用量が少ないというアンケート(昨夏、PV-Net実施)結果により、自然を活用した住まい方をテーマに発表することとなりました。

夏には茂ったぶどうの葉とよしで南と西からの日差しを防ぎ、窓、部屋の仕切りを開放して風の通り道をつくります。昨夏は日中の暑さ、夜の蒸し暑さのため、各1回クーラーを使用しました。また、朝夕のホースでの散水時には、上向きに高く撒き、より気温が下がることを期待します(涼しくなった気分と、人工の虹を楽しみます)。

冬は、室内は9時頃から温室状態となります。日が沈む頃に雨戸、カーテンを閉め、冷えないようにします。悪天候時や朝晩には石油ストーブを使用しますが、湯を沸かしたり、煮豆、煮込み料理をつくるのに重宝しています。

わが家の発電量は、ゴルフ練習場の太い鉄柱の影が正午前後にかかるため、近隣の方より2~3割落ちてしまいます。しかし、屋根に隣り合わせで設置している太陽熱温水器はそれほど影響がないようです。4~9月の晴れた日には、毎日お日様が風呂を沸かしてくれます。冬は2~4日に1回、温水器のぬるま湯を半分使用し、50℃の湯を足して入浴します。

これからも手間を楽しみ、遊び心を持って工夫しながら、余分な資源を使わないように生活していきたいと思っています。

■ 事例4「仙人と呼ばれて」

——千葉県山武市 小関光二
千葉地域交流会の世話人をしております小関光二です。省エネルギーライフは、太陽光発電を設置しているか否かに関係なく実行すべきものと考えております。なぜならば、現在の電気を使えば、地球温暖化ガスである二酸化炭素が増えることになります。また、世界を見渡せば、いまだ電気の恩恵を受けられない人々がいることを思えば、便利さだけを追求する生活はこの辺で慎むべきではないのかと思います。

私は、15年前から電気消費量をチェックしはじめ、毎年色々な省エネ工夫をして、平成18年は月平均138kWh(2家族)までになりました。特に平成10年10月に太陽光発電を始めてからは、売電を増やすために、省エネに拍車がかかりました。

私の省エネの方法は、省エネ対策をとり、年々電気消費量が少なくなっていくのを楽しみに生活していることです。このことが評価されて、環境省から表彰されたものと思っております。

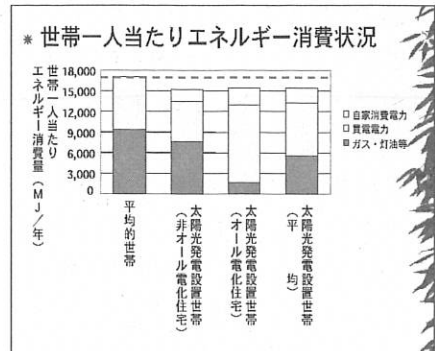
みなさん、太陽光の電気をなるべく多く売電するよう頑張ってください。

■ 事例5「わたしの暮らしと自然エネルギー」

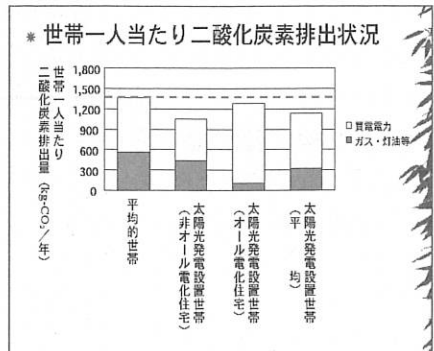
——熊本県熊本市 福田精二
今年とはとりわけ暖かい冬で、マスコミもやっと温暖化を真正面から取り上げるようになってきました。いよいよ猶予できないとの感を深くします。

さて、わが家は1999年にNEF(新エネルギー財団)と市民団体の補助を受けて太陽光発電をつけました。それまで環境に対する漠然とした興味はあったのですが、これを機に太陽光発電を中心とする自然エネルギーという明確な形になり、いろいろな市民活動家とのご

●図1 実態調査結果①



●図2 実態調査結果②



縁をいただくようになりました。すべては太陽光発電から始まったわけです。

以来、人さまに勧める以上まず自分でというわけで、いつのまにか自然エネルギーマニアになり、生活をできるだけグリーンエネルギー化しています。屋根には太陽光発電と太陽熱温水器、車は廃食油からつくる軽油代替燃料で走らせるディーゼル車、居間の暖房はペレットストーブ。食もできるだけ自給しようと野良仕事に取り組んできました。

わが家の二酸化炭素排出量は標準家庭の約1/2まで辿りつきましたが、たかが半分との思いもぬぐえません。執行猶予がなくなりつつあるいま、我々はもっと不便でもっと辛い暮らしに戻るしか手がないという覚悟を共有せねばならないと思う今日この頃です。

■ 事例6「太陽光発電と省電型家電の併用で省エネ及びCO₂削減はどの程度可能か」

—神奈川県横浜市 永木猛弘

私のところは太陽電池モジュールを屋根の南面に2kW、東西面に各0.43kW、ベランダに1kW、計3.86kWを設置した普通の住宅です。2003年は電気、ガス、灯油を併用し、東電とは系統連系「従量契約」で1年間生活しました。そして2004年のリフォーム時にエコキュート、IHクッキングヒーター、エアコンなど省電型家電を取り入れてオール電化にし、「電化上手契約」に変更しました。したがって2005年はオール電化生活となり、ほぼ同じ生活条件で2003年のデータと比較ができ、省エネ度、経済効果及びCO₂削減度など、興味ある結果が得られました。

2005年は、2003年に比べて全消費エネルギーは63%に、経費は38%にそれぞれ大幅に減少し、排出CO₂は90%に減少しました。エネルギーと経費については上記の高

COP、高効率省電力器機の採用と夜間低料金制の効果が大きいです。また、CO₂排出量はPV自家消費分により83%に減少しました。もしPV発電量をすべて自家消費すれば65%になります。

■ 研究報告「PV設置オール電化住宅のエネルギー消費実態と省エネ」

—静岡県浜松市 松尾廣伸

◎調査の概要

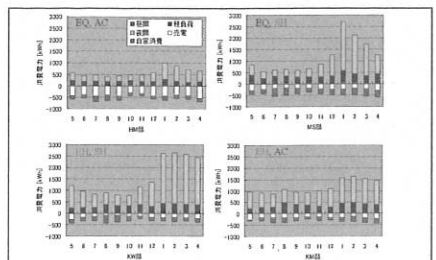
ここ数年、「オール電化住宅」が普及の速さを増しています。オール電化住宅とPVとが相性が良いことはみなさまご存知の通りです。しかしながら、過去に「PV-Net News」でも疑問が示されたように、そのエネルギー消費実態は十分に知られていません。そこで、ここ数年以内に建築されたオール電化仕様の木造住宅（@浜松）を対象として、2004年5月～06年4月までの期間における消費電力量の調査を行ったので、その一部を報告します。

調査にご協力いただいた住宅の延べ床面積は112～141m²（平均131m²）で、新省エネ基準～次世代省エネ基準の断熱性能を持つ、2階建ての一般的な木造戸建住宅です。太陽光発電は、すべて多結晶タイプのPVパネルを屋根面に設置しており、方位は南東～南西で、傾斜角は26～31度でした。

◎調査結果

月ごとの結果の一例を見ると、冬季にエネルギー消費量が大きく増加すること、電気温水器（EH）、

●図1 月間消費・発電電力計測結果例（2004年度）



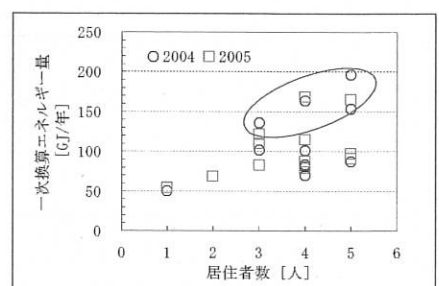
蓄熱暖房機（SH）を使用している住宅の電力消費量が多いことがわかります（図1参照）。特にHM邸（左上）とMS邸（右上）は、住宅の性能や規模がほぼ同じで、温熱環境もかなり近いものですが、換気方式の違いと蓄熱暖房機の使用によりこのように大きな差が生じました。

各住宅の年間の一次換算消費エネルギー量を居住者数に対してプロットした結果を図2に示します（換算にはH17省エネ法別表を使用）。居住者数の増加とともに消費エネルギーは増加する傾向にあるものの、その消費量は各住宅によって大きく異なり、4人以上の住宅では2倍以上の差になっています。消費電力が大きい住宅では電気温水器・蓄熱暖房機が使用されており（図2の囲み部分参照）、これらのエネルギー効率の悪さが消費エネルギーを増大させています。

すべての住宅の結果を単純平均すると、107GJ/年となり、標準戸建住宅の消費エネルギー量（NEDO住宅・建築物高効率エネルギーシステム資料：ガス・灯油を含む一次換算値）と比べて3割近く多くなります。一方、熱効率の良い機器を使っている住宅では、80GJ/年となり、標準値を下回っています。

したがって、オール電化で省エネをめざすには、使い方以前にエネルギー効率の良い機器を使用する必要があります。

●図2 一次換算エネルギー消費量



◎省エネに結び付く解とは

次に、PVの影響について考えると、計測期間における年間発電量は次式で近似されます。

$$PV\text{年間発電量}[MWh] \approx PV\text{パネル容量}[kW] \times 1.29[1000h] \dots (1)$$

仮に、3.6kWのPVパネルを設置したとすると、4.6MWh \approx 46GJの一次エネルギー削減となります。この数字を図2で見いただくと、使用機器による差よりも少ないことがわかります。

したがって、PVを設置する以前に、電気温水器・蓄熱暖房機をエコキュート・エアコンに切り替えて（併用も可）いただくほうが効果

は大きく、その上でPVを設置することで、一般住宅に対して消費エネルギーの大幅な削減が可能となります。

このようにオール電化住宅は、適切な機器を選択して初めて省エネへと結びつきます。エコキュートであっても、貯湯設定温度は可能な範囲で低くする、追い炊き・保温機能の使用を控え、差し湯を利用するなどを行うことでさらに省エネになります。

以上の結果は地域によって異なります。また、省エネの観点から

述べましたが、エネルギーセキュリティ、CO₂排出量、環境、安全性、経済性など、どれを重要視するかによっても解は異なります。いずれにしても、限られたエネルギーを上手に使いたいですね。

蛇足、よくオール電化とガスとの比較を耳にしますが、太陽熱温水器と潜熱回収型の給湯機の組み合わせが、現時点で一般的な最も省エネとなる給湯システムです。IHとガスコンロの差は、住宅における消費エネルギーの1%にもなりません。

「太陽光発電を通じた省エネルギー型ライフスタイル普及啓発事業」とは

PV-Netでは、国内のPV設置者等が行っている先駆的な省エネルギー型ライフスタイル（カーボンフリーライフ）を、一般のPV設置者や、環境問題に関心を持つ市民に広く発信することにより、増加の著しい民生部門における化石燃料起源CO₂の削減に資することを目的に、本活動を開始しました。年越しの企画です。

今年度の活動の柱は大きく3つ、①PV設置者のエネルギー使用実態調査、②PV設置者の中でもトップランナーとして消費エネルギーの削減に取り組む先駆的PV設置者のライフスタイル詳細調査、③カーボンフリーライフ普及啓発イベント、です。

2006年夏には、会員のみなさんにエネルギー使用実態調査に協力をいただきありがとうございました。この活動を通して国内のPV設置・利用促進を図るとともに、PV設置世帯における直接的なエネルギー消費削減効果だけでなく、ライフスタイルの転換による間接的な省エネルギー効果の最大化をめざしています。その背景には次の2つがあります。

◎太陽光発電＝省エネルギー型ライフスタイル？

PV-Netがこれまでに行った調査等の中で、太陽光発電（以下、PV）を設置した家庭は大きく2つに分かれることがわかってきました。一方は、PVを設置することで、省エネルギーをさらに進めるトップランナーと呼べる家庭。一方はPV設置後、それまで以上のエネルギー消費をしてしまう家庭です。国がいくらPV普及に熱心であっても、ライフスタイルの意識によっては、その効果は半減してしまいます。改善のしどころです。

◎PVの普及は順調？

京都議定書が発効した現在、国の温室効果ガス削減目標に対してPVの果たす役割は大きいものと期待され、地球温暖化対策推進大綱にも2010年までに100万戸の設置目標が掲げられています。住宅用PVの国内設置件数は30万戸を超えと言われ、今年度からは環境省が「ソーラー大作戦」として大規模な普及事業を実施している一方、新エネルギー財団による「住宅用太陽光発電導

入促進事業”は、昨年度をもって終了し、普及のスピードに鈍化が見られます。

平成18年度の活動を通して、PV設置宅における省エネルギーに対する意識はとても高く、省エネ行動が実践されていることがわかりました。一方で、オール電化住宅でCO₂排出量が高くなっており、せっかくのPVの効果が減じられていることがわかってきています。

今年度の活動を基礎に、平成19年度の活動について、同基金へ助成金の交付要望書を提出しています。普及啓発用資材を作成し、これらを活用した実践・普及啓発イベントを行うという内容です。申請が通るよう願っています。

（事務局 手塚智子）

※当事業は、PV-Netが環境再生保全機構「地球環境基金」の助成を受けて行っています。
<http://www.erca.go.jp/jfge/index.html>



「地球環境基金」のロゴマーク

神奈川地域交流会、県から自然エネルギー普及促進事業を受託

■ 受託事業の概要

神奈川地域交流会は、昨年10月に『神奈川県18年度新エネルギーアドバイザー事業』を受託しました。

この事業は「新エネルギー導入等の実績があり、具体的・実践的なノウハウを持つNPO法人が、新エネルギーの導入について、導入の適否、適した規模、導入効果、費用、利用可能な助成制度等の導入の決定に必要な情報や導入手順等を個別・具体的にアドバイス、コーディネートを行う」もので、PV-Net神奈川を含めて4団体が委託を受けました。他の3団体は風力やバイオマスなどの新エネルギーや事業向けの設備導入も対象としているのに対し、PV-Netは個人住宅の太陽光発電のみを対象とするという限定契約で、まさに当会の通常の活動をそのまま展開することにより事業が成り立ってしまうという、非常にありがたい委託内容です。

とはいえ、やはり最低限の委託条件はあり、「電話等での個人への情報提供及びアドバイス」と「20名程度の規模の説明会などを3回以上開催する」という2つを履行する義務があります。また、県側の理由により募集が遅れて契約期間が約半年間と短く、人集めやPRのための時間をあまり確保できないために、県内ではまだあまり名が売れていないPV-Net神奈川にとっては少々厳しいという面もあります。

■ PR活動からスタート

受託後、事業実施計画の作成や世話人の役割分担決め、さらには県以外の地方自治体、市民活動サ

ポートセンター、その他関連団体や組織への後援依頼・協力要請などにバタバタと走り回っているうちに2006年が終わり、具体的な事業活動(すなわちアドバイザー事業)は新年になってからスタートということになりました。

ここで特筆すべきは、世話人のPR活動です。10の地方自治体に手分けしてPV-Netの紹介を兼ねて協力要請した結果、8市町村に後援をしていただけることになり、大いに当事業の信頼性を高めることができました。また、各地の市民活動サポートセンターや地域の役所にはチラシの配架をお願いし(少々押し売り気味だったかもしれませんが)、あちこちの住宅展示場に、新築住宅の屋根にPVを普及させるための働きかけも行いました。ただし、住宅展示場でのチラシは「しよば代」をいただきますと言われて断念、残念な結果となりました。

また、県も積極的に応援してくださり、広報、ホームページなどでも紹介していただきましたが、我々も、市の広報や市民活動センターのネットワークでの宣伝、新聞社やミニコミ誌への情報掲載など、利用できるツテはすべて利用してPRに勤めました。

■ 相談会の概要

相談会は、1月末から3月初めにかけて、平塚・相模原・横浜・横須賀の4会場で開催いたします。各会場とも当日は個別相談窓口を開設すると同時に、PVに関する包括的な概要説明のほか、設置に関する注意事項や経験談、経済的なメリットや電気料金のしくみなど

について、未設置者を対象としたわかりやすい全体説明を行うことになっています。原稿を書いている今日時点(1/22)で、参加を希望する方々から次々と連絡が入ってきていますので、きっと各会場とも熱気あふれる質疑応答が繰り広げられるのではないかと期待しています。

ところで、これまでに連絡をいただいた参加希望者にどのような理由で参加をするのか尋ねたところ、大きく2つのグループに分けることができます。ひとつは新/改築を予定しているの具体的な相談をしたいという方々、そしてもうひとつはなんとなく太陽光発電が最近話題なので概要を知りたいという方々です。

後者のグループの方々には、私たちPV-Netのメンバーで対応できませんが、前者のグループの参加者に対しては私たちだけの知識や経験では不足で、設置事業者さんや無料見積受託事業者さんにもご協力いただくことになっています。

また、2月10日の横浜での説明会は、恒例のPV-Net神奈川フォーラムも兼ねて一日を費やして開催されることになっています。プログラムとしては、県の環境計画課や産業技術総合研究所の縁の方々に講演をお願いするほか、世話人からも様々な貴重な体験談やデータ収集分析結果などを披露してもらう予定で、地域の会員にとっても新たな情報を仕入れるまたとない機会となること間違いなしです。(神奈川地域交流会代表 野村安子)

山梨地域交流会、グリーン電力基金助成事業として山梨県北杜市の公民館に太陽光発電を設置

■ グリーン電力基金の地域協働プロジェクトとは

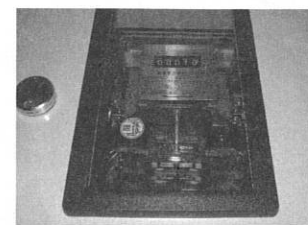
山梨地域交流会では、山梨県北杜市の公民館にグリーン電力基金の助成金をいただいて、5kWの太陽光発電を設置しました。地域協働プロジェクトとして設置費用の85%の助成金が支給されます。

グリーン電力基金とは、東京電力の契約者が、毎月1口500円からの寄付金を電気料金と一緒に支払う基金です。この金額と同額を東京電力が基金に寄付しています。それによりこの基金は運営されています。

グリーン電力基金の地域協働プロジェクトは、グリーン電力基金普及に向けた取り組みを4年間行うことを条件に、高い助成金が受けられる制度で、NPO法人等が応募しやすいように今年度からできた新しい制度です。

■ 山梨地域交流会の申請内容

- ・グリーン電力基金の新規設置場所の公募を新聞等のマスコミを通じて行うことにより、グリーン電力基金の理解活動の一助とします。
- ・山梨県内の新規加入口数を毎年10%増加させることを目標とします。
- ・PV-Netの交流を通じた会員相互の啓発により、グリーン電力基金への理解と普及を進めます。
- ・山梨地域交流会HPや会報を通じた紹介により、PV-Netの会員の加入率(東電エリア内)を10%以上に高めることを目標とし、現在の会員数から換算して100口以上の新規加入を目標とします。また、グリーン電力証書による新たな設置資金の確保も提案しています。
- ・地域での活動として年に1、2回、施設の見学会も予定してい



グリーン電力を販売するために設置した、計量法に対応したメータ

ます。当施設は、清里小学校に隣接していて、小学校の課外活動に活用可能です。毎月の発電データの入力とPV健康診断を小学生に体験してもらい、自然エネルギーの理解活動を行うことも計画しています。

設置された太陽光発電設備は公民館に帰属します。発電した電力は施設で利用され、余剰分は東京電力に売電されます。ただし、環境価値であるグリーン電力は、PV-Netで販売して会の収入になります。グリーン電力を販売するために、計量法に対応したメータを設置しました。

(山梨地域交流会代表 大友 哲)

★ イベント 出展 報告 ★

★ エコプロダクツに出展しました

今年で8回目となる「エコプロダクツ展」が昨年12月14、15、16日に開催されたことはみなさんご承知の通りです。環境に配慮した製品やサービス、社会や企業の先進的な取り組みを紹介するこの展示会には、自らが環境に意識があるゆえに太陽光発電を始められたPV-Net会員の多くの方が実際に足を運ばれていらっしゃいました。特に、普及広報部からボランティア参加を呼びかけた結果、実に延べ20の方が手弁当で駆け付けてくださり、展示スペースは小さいけれどやる気は満々の、NPOコーナーの一角を占めたわがブース前で、熱心なお客さまに、それぞれこれまた熱心に語り合ってくださいました。(普及広報部座長 鈴木昭男)



★ 地域と共生するくらしかた「ライフスタイルフォーラム2006」に出展

当フォーラムは、毎年11月に東京都内で開かれるライフスタイルの見直しを考えるための催しです。今回PV-Netは初出展しました。

今年は「GNH=Gross National Happiness (国民総幸福)」という、ブータン王国が提唱している国家指標がサブテーマに掲げられ、また、新宿御苑開園100周年にあたり、フォーラム実行委員会と環境省が主催となり、菊花展が開かれている御苑内で開催されました。カラフルなテントづくりの100周年パビリオンの中で、恒例の課題別フォーラ

ムやトークショウが行われました。まわりをNPO・NGOや企業のテントが囲んでいます。初日は一日中寒い雨模様で参加者も少なく、翌日はぬけるような上天気。PV-Netのオレンジののぼりも威勢良きはためていました。

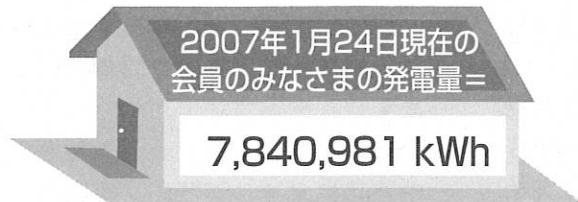
参加者の顔ぶれは普段の環境展示会とは少し違い、家族連れや公園のビジターです。それでも何組かはPVについて詳しく質問していかれました。今回もボランティアスタッフが活躍しました。

(東京 関沢ひろみ)

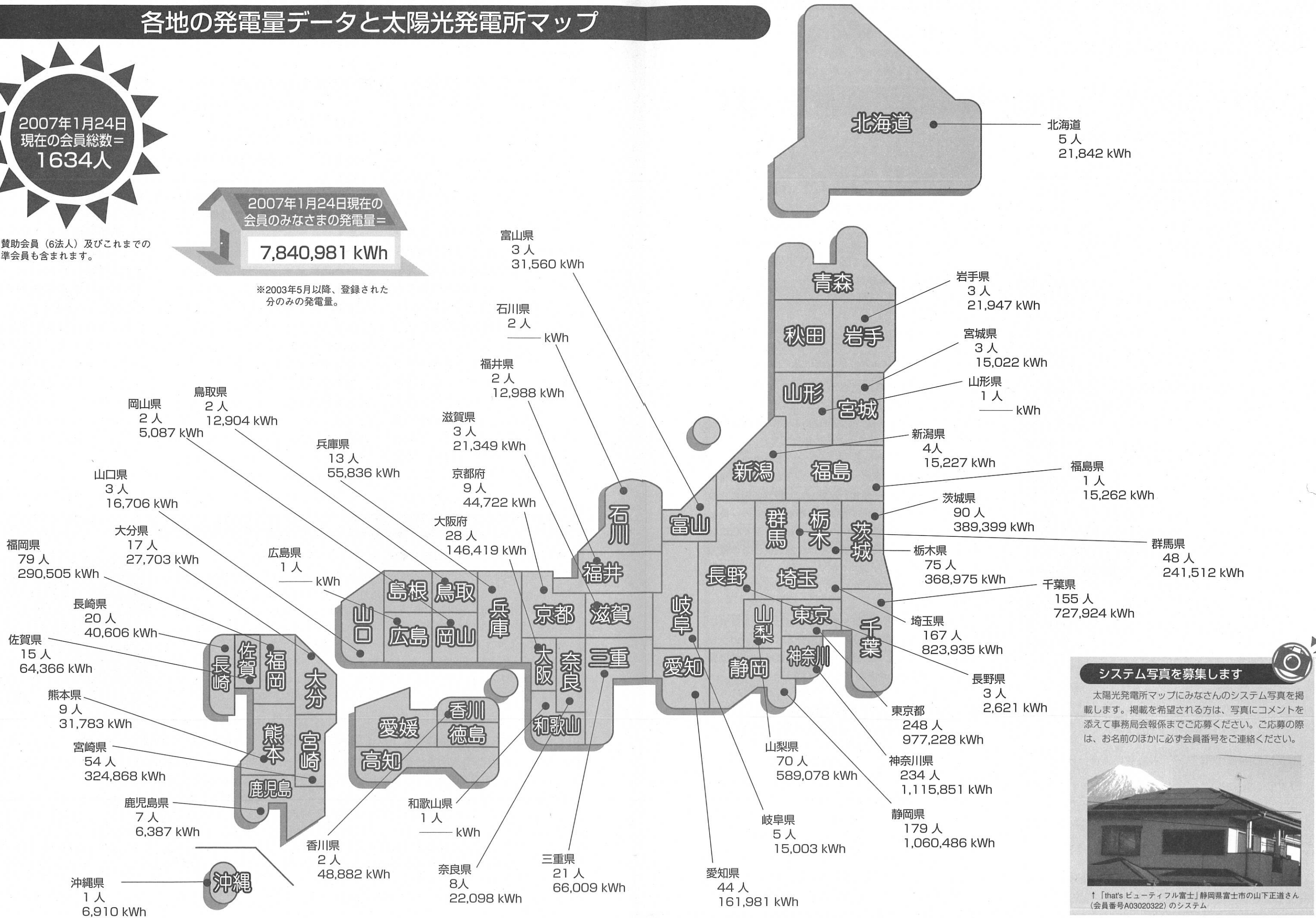
各地の発電量データと太陽光発電所マップ



※賛助会員（6法人）及びこれまでの準会員も含まれます。



※2003年5月以降、登録された分のみの発電量。



システム写真を募集します

太陽光発電所マップにみなさんのシステム写真を掲載します。掲載を希望される方は、写真にコメントを添えて事務局会報係までご応募ください。ご応募の際は、お名前のほかに必ず会員番号をご連絡ください。



↑ 「that's ビューティフル富士」静岡県富士市の山下正道さん (会員番号A03020322) のシステム

ガンジーの『塩の行進』 —地球温暖化防止の潮流— 【長崎県雲仙市・岩永隆治】

■ブッシュの一般教書演説予報報道に想う

環境系のメーリングリストにて、「今朝、英国から『ブッシュ大統領は今度の一般教書演説で、温暖化に対するスタンスを大きく変える可能性が出てきた』』という一文が届いた。この記事を見て「やっとか!!」と思った人もきっと多いに違いない。もちろん、それは地球温暖化防止の枠組みを話し合い、決議した『京都議定書』に、アメリカが批准する可能性を示唆する発言内容だからである。

地球の人口の4%程のアメリカが、二酸化炭素の全排出量(人工的な活動)の内20%も排出しているのに、いままでも何やかやと難癖をつけて批准をかたくなに拒んできた。しかし、ここに来てやっと環境問題に配慮するよう姿勢を軟化させてきたようだ(しかし、イラクには強引に増兵政策)。

それは、昨秋に行われた中間選挙でブッシュが惨敗し、議会で多数派となった野党の民主党に気兼ねをしなくてはならなくなったからだろう。折しも、その民主党は、元副大統領のアル・ゴアが「不都合な真実」という地球温暖化を告発する映画を世界各国で展開して、あちこちでセンセーショナルを巻き起こしていた。きっとそのことが影響したに違いない。

この映画は今春から日本でも公開されている。実際に映画を観たわけではないが、論評から察するに、リアルでショッキングな映像は、いまの地球が抱える温暖化による深刻な現状を告発し、見た人に問題提起するような内容に仕上がっているようだ。

「地球温暖化問題に対し、いま私たちが何をなすべきか?」を模索せざるを得なくなったいま、このPV-Netの試みはいっそう意義深いものになるであろうと、私は願望も込めて世界の潮流を眺めつつそう思った。

■未来を創り出すムーブメントに

さて、そこで表題の『ガンジーの塩の行進』だが、これは言うまでもなく、インドの偉人マハトマ・ガンジーがイギリスからの独立運動の際に、専売であった塩を自分たち自らの手で作り出し、支配からの脱出のきっかけをつくらうとするムーブメントのことを指す。その行進は内陸地のサバマルティから80人ほどで始まり、400km離れた海岸の町タンディにつく頃には数千人規模で、民衆を巻き込んだ行進へと膨れ上がり、その後の独立運動への大きなうねりの口火となった。

塩は日常において当たり前で使用され、普段はあまり意識されないモノだが、それは人が生きるのに必要不可

欠なありがたいモノである。それを現代に置き換えると“電気”はこれに似たようなモノであると私は思う。

問題の多い原発や二酸化炭素を多く排出する電力会社の独占的かつ支配的な“電気”から、太陽の力で自ら生み出せるクリーンなPVの“電気”へ、このムーブメントは『ガンジーの塩の行進』同様、これからの環境に配慮した暮らしのあり方のトレンドであることを自覚し、ガンジーのように胸を張って訴えていく勇気が未来を創り出す『要』になると私は確信している。

思わず結論づけてしまいました。事務局から「発電量やくらしの様子も知らせてください」とのことでしたので……。

■私が発電所長となったきっかけ

わが家の太陽光発電所が始動したのは、1997年の冬で、京都にて二酸化炭素の削減を取り決める『地球温暖化防止会議』が話し合われた前年に当たります。

設置しようと思いついたきっかけは、そのまた10年ほど前の1986年、ロシアのチェルノブイリで起きた原発事故を目の当たりにしたときからでした。世界各国に死の灰を降り注いだその原発事故は、原爆被災地県の一員として、日本がとる原発政策への不信と疑問を深く私に抱かせました。当時の原発の依存率は3割程度、この電力をみな削減したり自然エネルギーで賄ったりすれば原発の撤廃は可能なのじゃないか、という安直な考えがその始まりでした。

しかし、そんな思いとは裏腹に世の中はバブル景気に浮かれ、節電どころか電気も大量消費され続け、いつしか原発の依存率はもっと高まり、地球は温暖化で気象異常が当たり前の世の中となってしまいました。

■わが家の工夫と「ハチドリ計画」

その他に、わが家を取り組んでいるエコな工夫の中からふたつを紹介いたします。

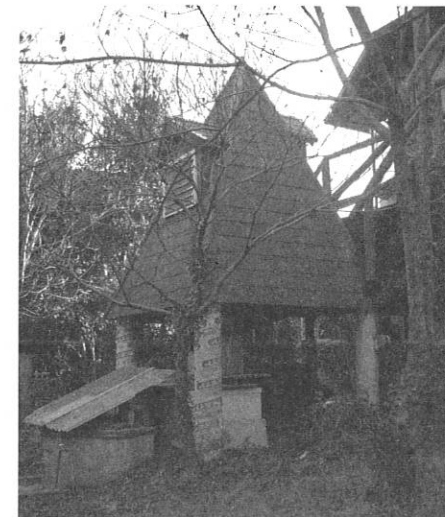
そのひとつが「雨水タンク」で、DIY(自作)した工房の隣接地にスコップを手に一人で地下埋設型のタンクをつくりました。結構容量があって2.4m³(ドラム缶で約12本分)もの貯水ができます。洗濯やトイレ、庭木への散水などの二次水として使用し、とても重宝しています。

ふたつ目が、これは田舎暮らしならではのメタン発酵式の「バイオマストイレ」です。簡単に原理を説明すると、人間が日々排泄する「お宝」と炊事での野菜屑や残飯を、

密閉したタンクの中で発酵させて、有益な煮炊き用の「メタンガス」と「肥料(水肥)」をつくり出す優れた装置です。もちろんこれもDIYなのですが、決して複雑な技術ではなく、ネパールや中国の農村で数多く見られる設備で、庭木や畑に貴重なチッソ分や有機質分を循環還元できます。

最後になりましたが「そんなことぐらいじゃこの温暖化は食い止められないよ!」とお嘆きのあなた。南アメリカに伝わるクリキンディという名のハチドリの物語を知っていますか? とても考えさせられる物語なので、これを機に是非ご一読いただき、何かを「汲み取って」いただければ幸いです。

※『ハチドリ計画』(<http://www.hachidori.jp/story.html>)



DIYした「バイオマストイレ」

積雪の克服が最大の課題

【青森県青森市・今村 修】

■設置の経緯とシステム概要、発電状況

今回、太陽光発電所ネットワークに加入させていただきましたが、私が設置した経過を報告し、青森県でのさらなる普及活動に努力する決意とさせていただきます。

10年前の1997年10月30日に、わが家の太陽光発電所「ホタル1号」が発電を開始し、これまでに25,981kWを発電して、東北電力からの売電収入は265,549円でした。この間、一度も故障せず発電を続けてきましたが、雪が降り始める12月から3月までは冬眠をさせていただきますので、よく発電をしてきたと思います。

「ホタル1号」は、昭和シェル(株)の単結晶シリコンを使用し、最大出力3.3kWの発電能力があり、総工事費は4,161,200円で、国の補助金1,699,500円を受けて、(株)エコテックの工事で設置したものです。

青森県では、核燃料サイクル計画など、原子力推進の動きが活発化しており、クリーンな自然エネルギーとしての太陽光発電が青森でも活用できないかと考え、1996年6月に都筑さんに来ていただき勉強会を開催し、国の「住宅用太陽光発電システムモニター事業」へ応募しました。

ところが、募集人員1,866人に11,192件もの応募があり、抽選の結果補欠番号2,653となり設置をあきらめていたところ、1997年8月になってから、辞退者が続出し、繰り上げ当選との連絡と、補助金諾否の早急な回答を求められ、あわただしい手続きをし、10月の工事となりました。後で聞いたところ、大量の応募者は、メーカーが勝手に応募したもので、設置者を確保できず次々辞退したため、本来だと繰り上げになるはずのない私のところまで廻ってきたようでした。

設置以来、今日まで毎日毎日、発電量の記録を記入し

つづけ、モニターとして設置から3年間は、(財)新エネルギー財団に報告を続けました。ところが、2003年3月に財団から21カ月しか報告が出ていないとの連絡を受け、唖然としました。モニターから受けた報告の管理がずさんであったようです。毎月のエコテックへの報告もあり、記録作成は続けており、報告していたのに残念でした。

■PV-Net入会を機にさらなる普及活動を

その後、青森でもオール電化住宅を売り物にする建設会社が現れ、太陽光発電が徐々にですが普及しはじめました。そこで設置した人たちが集まったりしましたが、長続きしませんでした。

この10年間発電を続けてきて、最大の悩みは積雪による「冬眠」です。パネルの設置角度にもよるのですが、雪が降り、パネルに積もると同時に発電がストップしてしまいます。今月に入り、青森の会社が大学などと協力し、太陽光発電での融雪実験を行っており注目されます。

もうひとつの課題は、設置費用の問題です。まだまだ割高で、一般的に普及する状況にありません。20年間発電を続けたら、設置費用を賄えることができればと思います。

当面、設置している人の再結集を図り、共同発電所の設置活動などを提起し、活動を開始したいと思いますので、ご指導をお願いいたします。



雪に覆われた「ホタル1号」。目下冬眠中

★ みなさんからの投稿をお待ちしています! ★

茨城地域

～第6回茨城地域フォーラムを開催～

昨年9月30日に開催した第6回茨城地域フォーラムの講演の概要を、参加できなかった会員の要望に応じて茨城版HPに掲載しました。PV設備の故障や性能低下の原因となる事例及び日常のメンテなど、PV所有者にとって役立つ情報が満載です。ぜひご覧ください(http://www.pv-ibaraki.net/)。

～茨城環境フォーラムに参加して～

昨年12月21日、茨城県地球温暖化防止活動推進センター・茨城県立図書館主催で開催された「環境フォーラム」に参加しました。

当日は世界的に著名な山本良一東大教授が「地球温暖化はもはや手遅れか一急がれるエコ・イノベーションの推進」という魅力的なテーマの講演をされました。他に事例発表として「企業における取り組み」「家庭用エネルギー消費削減技術について」「温暖化防止の実践活動」など、まさしく地球温暖化防止の趣旨に深く関わる有意義なフォーラムでした。

地球温暖化は確実に進行しています。2℃を超えると人類は深刻な事態を迎える等々をはじめ、豊富な内容を掲載した資料も配布されました。広範な活動分野と規模、運動の影響力を見て、自分たちの活動のあり方を考えました。

地球温暖化の防止という究極目標に対し、PVの普及を通じて近づこうとする我々の活動に対して、エコプロダクトに代表される、省資、省エネ、節電も、また効果の大きい重要な運動です。目的を同じくする多くの環境活動の分野があります。これらが近隣地域でそれぞれの特徴を持ち寄って一同に会し、ときに活動することは、全体を見通し、互いの意義を認識し、陥るかもしれない独断を避け、より効果的な活動を進める上で必要

なことであると感じました。

(茨城地域交流会代表 前川淳治)

栃木地域

～新世話人による出直しです～

昨秋、前任の世話人が全員辞任され、新しい世話人によって交流会が引き継がれました。メンバーは以前からの会員、また新しく会員になられた方など様々ですが、まだまだ組織固めの段階で、各世話人の役割分担、今後の活動方針など、多くのことを決めていかなければなりません。

10月の準備会発足後、11月までの数回の会合には、当代表理事の藤井さんをはじめ三役の方々、事務局からは局長の都筑さんと伊藤さんが来てくださいました。これらの会合では、世話人全員がそれぞれの地域世話人としての役割を分担すること、地域世話人の他に広域世話人を設けることを課題としています。

今後順々に地域小集会を開催していきますが、当面は組織固めの意味もあり、既存会員を対象にPV健康診断、PV-Greenなどの説明を行い、会員としてのメリットをアピールして会員の継続を確保することが目標です。そのためには世話人自らが発電データを記録し、PV-Greenの申し込みを行うことについて確認し、会員拡大の具体的な活動方法などについて話し合いました。

次回の世話人会も間もなく開かれますが、できるだけ多くの世話人の方が出席して下さるよう期待したいところです。

(栃木地域交流会事務局 吉永光伸)

群馬地域

～草津温泉の「もうひとつの顔」～

PV-Netの仲間みなさん。あけましておめでとうございます。PV-Net群馬地域交流会の梅澤です。

とはいえ、この原稿がみなさまの元に届く頃は、正月気分も抜けきって暦の上では「春」ですかね。まっ、何はともあれ今年も群馬をよろしく願いいたします。

さて、昨年11月26日(日)～27日(月)に開催しましたPV-Net群馬地域交流会恒例の「見学会を兼ねた(?)温泉ツアー」に参加いただいたみなさん、大変ありがとうございました。温泉熱利用・水力発電・ハツ場ダム建設現場見学などなど、ちょっとシュールな話題も含めて盛りだくさんな企画でしたが満足していただけたでしょうか?

主催者側として非常に興味深く、また驚いたことは地元の温泉地の取り組みが、もしかすると世界を動かす兼ねいことになるかも。特に温泉の廃温水から「レアメタル」を取り出す事業に町が積極的に動こうとしている姿には、「地球の恵み」とそこに住む「人間の知恵」が、まさにタッグを組んだときに「希望」が見いだされる事実があったことです。

私たちの「太陽」もすばらしい。そして私たちの足もと「地球」もすばらしい。そんな思いを強くした見学会でした。みなさんも、もし草津温泉に訪れる機会がありましたら温泉の「もうひとつの顔」に思いを馳せてください。きっと新しい発見が約束されますよ。

さて、「今年の温泉ツアーはどうか?」いうみなさんの要望が聞こえてきます。ずばり「温泉マーク発祥の地」磯部温泉を予定しています。詳細は追ってアナウンスしますので、どうぞ御期待ください。

(群馬地域交流会世話人 梅澤耕一郎)



草津温泉のシンボル「湯煙」

千葉地域

～フォーラムは大盛況、地元TVが放映!～

千葉恒例行事となった感のある地域フォーラムを、今年は1月28日に松戸市、千葉県の後援を受けて女性センターゆうまつどで開催。当日は60名を超える参加があり、大盛況となりました。

環境省、松戸市、産総研(産業技術総合研究所)、シャープという豪華講演陣を揃え、大所高所の話から具体的な取り組み、技術的な観点、実物紹介と、贅沢かつ内容充実の講演となりました。設置家庭の事例紹介では、今回は「太陽光発電比率109%(2006年)」の「名人」こと、世話人の篠塚さんに発表していただきました。

PV-Green電力証書のしくみも紹介し、併せて松戸市環境計画課担当者と世話人のポケットマネーで購入した証書をフォーラムに適用、会場で使用した電力を「千葉県産のPV-Green電力で賄っている」とPRしました。一般の方に知っていただくため、今後も出展、イベントにはPV-Green電力をあてていきたいと考えています。

松戸市広報の効果で地元TV(コアラテレビ)の取材が入り、講演の様子や展示資料の撮影を行っていました。放映される予定です。

(千葉地域交流会代表 宮下朝光)



まつどフォーラムの様子

埼玉地域

～川越市内自治会集会所へのPV設置にアドバイザーとして活躍～

埼玉地域交流会ではPV設置希望者に対する個別相談に取り組んできましたが、今回は地域自治会

集会所への設置が実現した例を紹介いたします。

05年10月に川越市環境政策課から「市内の自治会が集会所の建て替えに際してPV設置を検討中なので、アドバイスして欲しい」と依頼がありました。自治会の担当者に話を聞くと「地域に設置経験者がいないので注意事項や工事見積りについて教えて欲しい」とのこと。さっそく自治会役員会に対してPV基礎知識講習会を行った結果、PV設置委員会ができて具体的な計画が始まりました。

自治会で準備している資金だけでは十分でないため、私たちはグリーン電力基金(以下、GIAC)へ補助を申請するようアドバイスをを行う一方、川越市に対しても個人住宅に対する補助金制度を拡大し、集会所へも適用できるよう要請するなどの活動も行いました。その結果、将来他の自治会などへの普及効果も視野に入れ、今回は特例処置で60万円の市の補助が決定し、GIACからの補助と併せて実現可能になりました。

従来から地域行政に協力して環境フェア出展などを行い、埼玉地域交流会の活動を示してきた結果が、今回の相談依頼につながり、アドバイスが活かされたものと考えています(工事完成後の点灯式は2月24日予定)。

(埼玉地域交流会副代表 宮田卓英)



川越市南田島地区桜堤自治会集会所全景(PV設置前。1月15日撮影)

東京地域

～12月大イベントで金賞受賞!～

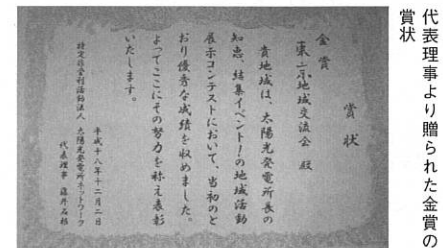
東京地域交流会は、昨年12月2日のイベントの地域コンテストで

1年の活動報告とPVグッズを展示、その結果金賞をいただきました。これはPVグッズが技術系の会員の方から評価が良かったため、一重に世話人でもある川原山さんのおかげかと思えます(PVグッズの詳細は12号会報誌をご覧ください)。

また、12月10日には世田谷区の「緑と水の環境共生都市せたがや」を実現するためのイベント「せたがや環境活動DAY」に出展しました。講演会や区内の農作物配布、実演コーナーがあり、東京地域交流会はこの催しの中でPVグッズと、世田谷区内の会員の協力を得て作成した太陽光発電所の所在地や写真入りの地図を展示しました。

最後に「中古で家を買ったら屋根にPVが載っていたのですがどうすれば良いでしょうか」との相談を受けました。詳細は次号に報告できるとは思いますが、今後このような相談も増えると思えますので東京地域交流会では積極的にフォローしていきたいと考えています。

(東京地域交流会代表 高柳良大)



代表理事より贈られた金賞の賞状

神奈川地域

～PV愛好家が集うPV-Net県央会～

今回は、近隣グループ「PV-Net県央会」の活動を紹介します。このグループは、県中西部会員の交流を目的として2004年11月から活動しています。グループの特色は、めっぽう電気に強いおじさん会員が多いことで、会合ではPVシステムのデータ解析や故障の原因追及などにいつも議論が盛り上がりま

す。こうした電気大好き、PV大好きが高じて、昨年10月にはグループ

の企画によるCIS薄膜化合物太陽光発電見学会も実現させてしまいました。近くの昭和シェル石油(株)中央研究所の開発用CISシステムで、通常は未公開のところを、地元の市民団体ということで特別に公開していただきました。

CISシステムは、昨年12月開催の「エコプロダクツ」で本格的にデビューし、販売価格なども発表されましたが、この10月時点ではまだマル秘の情報がほとんど。私たちからの質問にも微妙な答えが返ってきたのが印象的でした。

つまり、このグループは「PV同好会」と名づけるのがぴったりな、定期的集まっては雑談と情報交換を繰り返して、ときにはお茶会・飲み会で親睦を深めている、古くからの太陽光発電愛好家たちの集まりなのです。

(神奈川県地域会代表 野村安子)



CISシステム見学会にて

山梨地域

～当会初の太陽光発電設備が完成～

2006年11月19日(日)、甲府市主催の「環境リサイクルフェア」が甲府市環境センターで開催されました。その実行委員会により500kWhのPV-Green証書が購入され、利用されました。当日は、環境センターの建物や倉庫、そしてグラウンドなどに会場が分散してフリーマーケットや催しが行われ、その100kWh以上の電力がグリーン化されました。

12月22日には、山梨県清里の八ヶ岳興民館の5.22kW太陽光発電設備が完成しました。グリーン電力基金の助成金をいただいて設置が決まった太陽光発電設備です。

地域協同プロジェクトとして設置費用の85%の助成金が支給されます。

八ヶ岳興民館に設置された太陽光発電設備は公民館に帰属します。発電した電力は施設で利用され、余剰分は東京電力に売電されます。ただし、環境価値であるグリーン電力は、PV-Netで販売して会の収入になります。

2007年1月13日に、完成記念式典が開催され、当会の藤井代表理事が出席されました。また、北杜市長のご挨拶も予定より大変長時間で、この事業に対する評価も高かったと感じられます。

(山梨地域交流会代表 大友 哲)



→八ヶ岳興民館完成した太陽光発電所

←「山梨リサイクルフェア」に購入された証書

静岡地域

～イベント協賛出展で迎えた新年～

全国の会員のみならずには、大きな夢と希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。静岡地域交流会では、地元三島市の(株)WEHPY(We are happyを追求するイベント会社ういっぴー)が主催する「日本初!大人の成人式(60歳をお祝いする式典)2007年1月7日(日)発進!」への協賛出展で新年のスタートを切りました。

当日は、地元の地ビールレストラン、サロン、茶碗文化振興会、工房、エステション、チャーターヨット、工芸店など各種団体が協賛で参加され、新聞・テレビの取材を受けながら大変にぎやかに開催されました。太陽光発電所ネットワークは、PV-Netのノボリを正面に地元の設置業者の提供で、環境省や経産省作成の啓蒙ポスターや太陽光発電パネル現物を展示し、

参加者の注目を浴びていました。

今後、「沼津市フリーマーケット」「富士市環境シンポジウム」「掛川市環境を考える市民の集い」「静岡発みんなでストップ温暖化」「しずおか環境・森林フェア」への出展が予定されています。昨年同様、自治体や設置業者と連携しながら地域活動の展開を充実していきます。

(静岡地域交流会代表 山下正道)



「大人の成人式」の様子



「大人の成人式」のチラシ

中部地域

～下呂市細江肇さん宅を訪問～

1月4日11時、天気晴れ。「PV会員としてともに活動していただませんか?」と「自然エネルギー100%をめざす」岐阜県下呂市の細江太陽光発電所長さん宅を、陣野澄子、武田善明、武田恵で訪問。

下呂温泉街から加子母村に向け10分ほど行くと、右「上原」方面の標識あり。目的地は下呂市大字上原字蛇乃尾。ハンドルを西にきり、ゆるいカーブをゆっくり下っていくと谷間の南寄りに和川が流れ、その両側にポツリポツリと民家が見えてきました(80戸ほどの集落とのこと)。5～6分ほど下った辺り、南側に蛇乃尾・和川の看板があり、さらに200mほど進んだ北側、細江さん宅に無事到着。

南向き中2階建て、駐車スペースたっぷりの贅沢な庭。その東側

に、南から蓄電小屋、その北に広葉樹の薪小屋、薪が大小別々に整然と積まれています。さらにその北、放置されたままの炭焼き小屋が寂しそうに復興を待っています。

小屋の北は県の砂防用コンクリート塀。その塀に35cm角の太陽光パネル4枚(24W)が太陽に向かってぶら下がっていました。メーカー名の記載はなし。20年ほど前に、山小屋用に使われていたのだとか。枠がステンレスでつくられています。一旦は廃物にされてしまったそのパネルは、いま、テレビ・広報無線受信機用に活躍しているから嬉しい限りです。

塀の北にある山の斜面に、細江さんの手づくり自信作、4kWの太陽光発電が据えられていました。傾斜角度30度、連系利用。「あと1kW付け足したい」とやる気満々の細江さん。

山から水が導水されています。玄関前の庭を通って流れる水は、3つの役割を担っています。

第一水路は水田用。第二は池に一旦落とされ、鯉池・防水槽としての役割を担い、道路下を通して和川に落ちる寸前の水路出口に第三の役割が用意されています。水の落差を利用した水力発電装置で、これも細江さんのオリジナル。

装置は水車の大きさが40cmほど、水車の羽はステンレス。水車の動力で三相交流の発電機を回し電気をつくります。つくられた電気は直流発電の配線で充電器に蓄電。バッテリーも廃品で、トラック用バッテリー12V×8個と譲り受けたNTT用バッテリー2V×48個(=12V×8個)で蓄電しています。

この水力でつくった電気は発電機の効率やバッテリーのロスもありそうですが、直流インバータで100Vにして自宅の照明を賄っています。何かの拍子に停電になり、テレビが消えたとき、奥さまはテレビが故障したと勘違いし、「お父さん、テレビもう限界よ」と言われ

たそうです。

奥さまの勘違いはごもっとも。細江さん宅の照明はすべて水力で賄っているため、停電になっても消えることはありません。しかし、居間のテレビは中電を使用しているので「プチン」と消えてしまったのです。

風呂は太陽熱温水器を利用。ぬるいときは薪を焚く。「裏庭は山、薪はいくらでもあるのだからわざわざガスを使うことはない。一度、楽をしてしまうと後戻りもできないしね」は奥さまの弁。細江さんは「スローライフは忙しい」と笑って答えておられました。

水道は、市水道と井戸水を併用。「水道料金は基本料金3,120円だけ(!)」。ガスは「毎月5～6,000円払っているかな……」と細江さん。売電と買電の関係を聞くと、「子どもや孫たちが帰省したときは使いますが、それ以外の月は発電量のほうが多いです」。

みんなで、細江さん宅を訪問し、「100%自然エネルギーのまちづくり!」の実践を見学してみませんか? 細江さんは間瀬村の山小屋にも「友だちになんとかならんか!と頼まれて、水力発電所をつくってやりました」とのこと。間瀬村にも行きたいものです。

中部はすごい人ばかりです。歩けば歩くほど素敵な仲間が沸いてくる感じ。「中部自然エネルギー共和国」でもつくっちゃおうかなあ～ルンルン。

(中部地域交流会世話人 武田善明)

関西地域

～2007年に向けて～

関西地域交流会として2006年に42人でスタートし、会員拡大をめざして手探りの活動を開始しました。他団体との交流を図るため「大阪エコ縁日」に出展したほか、第2回PV-Netフォーラムを開催、各地域の組織づくりとして兵庫地

区の準備会を立ち上げました。

また、「会員めぐりキャンペーン」を企画、2回開催。1回目は世話人5人で奈良・京都エリア5軒を訪問し、有意義な意見交換ができました。特にIさんのお家では有機野菜料理をごちそうになりました。2回目は世話人3人と南大阪地区会員の4人がKさん宅に忘年会も兼ねて集合、Kさんの友人(即入会)も参加してPV健康診断、PV-Greenの学習、さらには美味しい料理とアルコールも入って盛り上がった交換会になりました。

この企画は会員との距離を縮め、会員拡大に繋がると実感しました。これからも続けて開催して行く予定です。

また昨年「ソーラーマイレージクラブ」委託事業が決まり、実行のために大変忙しくなりました。

2007年の活動の柱は以下です。

- ・ポストロック先へのDM
- ・アンケートの集計
- ・ソーラーアーク見学会
- ・第3回フォーラム開催
- ・エコワット、パネル貸出
- ・ヘルプデスクの開設

会員拡大リクルートで感じることは、関西地域PV-Netの知名度の低さです。今年の活動のKey wordは「知名度アップ」です。

(関西地域交流会世話人 南里 弘)



会員めぐりキャンペーンにて

佐賀地域

～ユニーク太陽光発電所コンテストを開催～

佐賀地域交流会は本部事務局からの強力なサポートのもと、2006年5月20日に発足しました。しかし、佐賀でのPV-Netの活動はスタートしたばかりで会員数の劇的な増加はまだ見込まれず、そのた

め日常活動でも会員の参加が少なく、地域交流会としての活動には常に本部事務局や九州広域地域交流会のみなさんの応援と連携のなか、実施しています。また、佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業も申請の出足が少し鈍いように思われますが、設置業者や地元市民団体との関係を築いているところと見えます。

このような状況をうち破るためのカンフル剤として、「ユニーク太陽光発電所コンテスト」を実施することにし、予選会を県内の2カ所(武雄市:12月16日、佐賀市:12月17日)で開催し、本選大会を佐賀市で1月21日に実施しました。九州電力(株)、佐賀新聞社、九州経済産業局、佐賀県(順不同)の後援をいただきました。

本選大会での発表者は予選で選ばれた方など9名、参加者は60名で、イスの数が足りなくなり会場が少し狭かったかなと思えるほどのうれしい大盛会でした。このコンテストを機に会員数と申請者数が急増してくれることを夢見て、現在活動しているところです。(佐賀地域交流会代表 西森秀夫)



九州地域

～長崎地域～

～長崎地域交流会の現状について～

今年はやたらと暖かい冬となっていますが、大きく言えば、地球環境は待たなしの状況になってきたなというのが実感です。小さなことでは、家庭菜園のサイクルが狂い、害虫に早くから対応しなければいけないなと思っています。

さて、長崎地域交流会は現在17

名。なんとか今年は40人をめざして活動しなければいけません。昨年暮れまで、世話人会を1回開催し、お互いの知識の向上と会員増の対策をとってきましたが、1月は開催できなかったため、2月以降は定期開催をしたいと考えています。

また、過去2回の説明会は長崎市で開催しましたが、今後は県央地区(大村市・諫早市)や県北地区(佐世保市)などで開催すること、そして何かの環境イベントでの説明会ができていけば、必ず会員増へと繋がると思っていますし、それに伴って、世話人もレベルアップしていくものと思います(特に私が…)

(長崎地域代表 田中幸則)

～熊本地域～

～会員獲得をめざして～

昨年7月に立ち上げフォーラムを開催してから早いもので6カ月が過ぎました。実動メンバーの少ない熊本として現在優先的に取り組んでいるのは佐賀事業の支援です。8月の事業説明会の応援、12月と本年1月に開催された「太陽光発電ユニークコンテスト」には事例を報告することと夕方からの打ち上げに欠かさず参加するという応援に努めました。

また、一昨年から継続していた市民共同おひさま発電所がついに昨年末完成し、熊本の第2号として1月13日に無事に点灯式を迎えました。写真はその地域向け学習会のひとコマです。この事業そのものはタイミングの問題でPV-Net



地域市民向け「おひさま発電学習会」の様子

ではなく筆者が属している地元の別の市民団体が取り組んだことになりましたが、現在、有望な熊本第3号発電所に向かって活動中です。この第3号にはPV-Net熊本地域交流会としてスキームに参加することにしており、来年のいま頃には完成にこぎつきたいと願っています。

現在の我々の最大の懸案は会員獲得です。市民共同発電所の活動やイベント開催を通じて会員を獲得し、正式の地域交流会として早く認められるよう努めるつもりです。

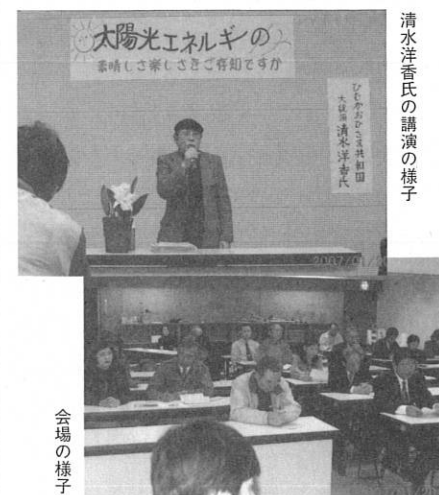
(熊本地域代表 福田精二)

～大分地域～

～太陽光発電セミナーを開催～

「太陽光エネルギーの素晴らしさ楽しさをご存じですか?」と題し、1月20日(土)、大分市アートプラザ研修室に「ひむかおひさま共和国」大統領の清水洋香氏をお迎えして第1回研修室を開催いたしました。

「地球温暖化防止のために地球上の全ての人への啓蒙を」との思いで、都井岬に生まれ、野生馬の保護に尽力され、チェルノブイリの原子力発電所の爆発事故から始まった自家発電の思い、ひむかおひさま共和国の設立から、会員拡大、会場確保、講師の選び方、どんなイベントを開いていくか、小中高の



清水洋香氏の講演の様子

出前教室の楽しさなど、これまでの足跡を楽しくお話いただき、これからの大分地域交流会の進路に大きな夢と希望を与えてくれました。

(大分地域代表 足立文字)

～鹿児島地域～

～手探り状態の活動の中から～

このところほとんど活動らしいことができずにいます。まずは、会員の顔が見えにくく、これまでの会合で出会ったメンバー以外の情報が取れずにいます。

そんななか、市民団体である「かごしま市民環境会議」が、4機目の市民共同発電所を保育園と老人介護施設を併設している「ゆうかり保育園」に設置の運びとなり、これを機にPV-NetのPRも兼ねて「自然エネルギー学校」パートIIを計画

してみたいと個人的に考えているところです。

(鹿児島地域代表 村山雅子)

～宮崎地域～

～都城市でミニソーラーカーの親子製作教室を開催～

2006年11月23日(祭)、都城市主催の「都城環境祭り」でミニソーラーカーの親子製作教室を開催しました。教材は市が用意し、33組(98名)のファミリーが集まり、製作に熱中しました。

当日はあいにくの雨天で、予定していたレースはできませんでしたが、地球温暖化による環境の変化の恐ろしさや省エネについてクイズ形式で勉強会を実施し、全問正解の親子に手動式発電機をプレゼントしました。

～門川町でミニソーラーカーの親子製作教室を開催～

2006年12月10日(日)、宮崎県地域振興課主催・門川町共催で私たちが製作教室を担当しました。県が用意したソーラエモンのミニソーラーカーは低学年にはちょっと難しく、親子一緒に、熱のこもった製作風景が見られました。

午前中は31組(93名)、午後の部には18組(55名)の親子が製作を楽しみました。また、午前中は当会の楠見博氏が、午後には下津義博氏が講演し、地球温暖化による異常気象の話、温暖化を防止するための省エネのことを小学生にもわかりやすく話しました。さらに省エネクイズも行い、正解率の高い3名に、手動式発電機をプレゼントしました。

(宮崎地域交流会副代表 栗原 稔)

PV-Net川柳 第十一回

PV-Net川柳は十一回目を迎えました。平成18年はPV-Netにとっても変革のときであり、これまでの東京電力管内の11地域交流から、九州や関西、中部地域と全国展開となりました。新しい地域の会員のみなさま、どうぞこのPV-Net川柳をよろしくお引き立てのほどお願いします。

さて、本題に入ります。平成18年は温暖化と言いか異常気象で、日照時間が少なく、1999年の設置以来、年間発電量はこれまでの最低2003年を6%も下回った年間ワーストワンですが、PV-Net川柳は健在です。

- ①TV会議 湯島と佐賀を 結び付け (神奈川・川崎の五右衛門)
- ②忘れてた この世にお目様 あることを
- ③勿体ない 猫に小判と 夜の晴れ
- ④黒い雲 そのけそこ退け お日様通る
- ⑤大晦日 妻は家計簿 俺PV (以上四句、東京・柳瀬仁茂)
- ⑥空模様 傘より気になる 日射量が (埼玉・XYZ)

今回は常連の五右衛門さんと新顔の柳瀬さんの傑作が揃った。

①の川崎の五右衛門さんの投稿の添え書きに、「1月12日の普及広報会議で佐賀地域とNet会議を詠んだもの」。Netが事務局と各

地の距離を縮めた。今後の発展が楽しみです。

②は遠山の金さんの台詞だ。太陽光発電を設置するとお日様は忘れられることはできなくなります。

③には全く同感です。その「勿体ない」を解決するには、是非、宇宙太陽光発電を考えてみては? 地球の回転に合わせて、軌道上に太陽光発電装置を打ち上げ、送電はビームで行う。天候も関係なく年中無休だ。

④はその通りだが、白い雲も厄介者だ。どうせなら「おーい雲 そのけそこ退け お日様通る」なんてはどうかな。

⑤昨年の家計簿は赤字で、PVは最低の発電量。今年に期待をかけましょう。

⑥手前味噌だが、降水確率30%の気象予報だと、傘の心配よりどれくらい発電量になるかのほうが気にかかる。わが家の年間発電量は1kW当たり800kWhだった。

PV-Net川柳にはむずかしい講釈は不要です。広い意味で、太陽光発電に関わることを五七五調で詠んだものなら、それでいいのです。ただ、担当者の狭量が問題です。気持ちだけでも「広量な大人物」になりきりたいと思っています。

次回もこのコーナーで、あなたの川柳とお会いしたいですね。ハガキ、Eメールで事務局までご応募ください。

(担当:普及広報部 松田廣行)

※お断り:柳瀬さんの投稿句には「句点」と「読点」が付随していましたが、勝手に取りました。

2006年度第4回理事会

- 日時：1月27日(土)
14:00~17:00
- 場所：湯島総合センター
- 参加者：理事16名、監事1名、事務局2名、オブザーバー3名

前回の理事会には申請が間に合わなかった九州地域・中部地域の相談員が、今回新たに承認されました。また、現在会員数78名の福岡地域交流会(準備会)は、設立フォーラム開催(3月予定)後、速やかに地域交流会として承認を得られるよう書面表決を申請し、承認されました。

報告事項として、3地域交流会(千葉、神奈川、関西)が、それぞれ受託事業の進捗状況を、山梨地域交流会がグリーン電力基金を受けて八ヶ岳民館に市民共同発電所を設置した報告を行いました。

部会では、組織部が各地域世話人会で会員拡大を議題に取り上げるよう依頼があり、財政部からは予算執行状況の中間報告、地域で行う助成金申請の奨励と申請時のルールについて等の報告、及び財務状況厳しい折から、地域イベントでの収益増(資料代・会場費等実費徴収的な有償配布)、経費節減の依頼がありました。

その他、PV基礎講座の開催やメーリングリスト利用上の自主ルールの作成(普及広報部)、PV-Greenの現状報告(PV-Green事業部)、各プロジェクトの進捗状況(佐賀事業、ソーラー・マイレージクラブ事業、地球環境基金等)、NGO/NPO・企業環境政策提言(三役)、総会までのスケジュール(事務局)、等が報告されました。

検討事項としては、今年度は役員任期満了の年であるため、理事選出に関する考え方が整理されました。まずは新体制(NPO法人・財政基盤の強化等)に対応できる機能重視の理事会をめざし、現

状の課題を洗い出すとともに、来年度はスリム化して機動性のある理事会とすることが話し合われました。

(事務局 伊藤まき)

【お詫びと訂正】前号の理事会報告記事(会報第12号P.22掲載)の中で誤りがありました。お詫びし、以下の通り訂正いたします。

- (誤) 2005年度第6回⇒2006年度第1回
- (正) 2006年度第1回⇒2006年度第2回
- 2006年度第2回⇒2006年度第3回

普及広報部

PV-Netの創生期から、充実期また財政の自主独立基盤の確立期を迎え、活動範囲も全国へと広がった今年、情報の共有化及び会議時間の効率化、旅費の省力化を図るため、TV電話会議のインフラ整備を行いました。現在は、大阪・佐賀・福岡・熊本・静岡とまだ数カ所の接続拠点ですが、今後は全国へ拡大し、一元化での全国会議をめざしていきます。

活動資金充実面では、部員の奮闘により、PV製造メーカーの会報への広告掲載もかなり具体化、早ければ次号ぐらいには掲載されるかと思われまます。その他、自治体からの協賛なども増えつつありますが、まだまだ十分な活動運営資金とは言えません。これからは重点的に検討していきたいと思ひます。

また普及活動面では、「ライフスタイルフォーラム2006」(11月開催)「エコプロダクツ2006」(12月開催)などの各イベントに出展しました。

今期、鈴木新座長を迎えて心機一転、いままでのパソコンなどのハイテク偏重路線を改め、ローテクによる普及広報も充実させるよう努力してまいります。特にみなさまにはポスティングなどの「草の根運動」で絶大なご協力をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで孤独になりがちな悩めるPVオーナーの一助を成し、

わずかながらも社会貢献できたのでは……と考えております。

こうした地道な普及活動が実を結び、「会員の増加」へつながるよう、もっと身近な出会いと会員みなさまへのアプローチを充実するため、PV-Netのホームページ(以下、HP)の「なんでも掲示板」を有効活用してまいります。

最後になりましたが、各地域交流会のHPを管理されている会員の方々に御礼申し上げますとともに、今後は連絡を密にし、全国各地のHP立ち上げにスクラムを組んでチャレンジしていきたいと思ひますので、なにとぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(普及広報部 井上義久)

財政部

厳しい寒さが続くなか、早くも2006年度の会計は第3四半期の締め切りを迎える時期になりました。中長期財政計画にある通り、財源の転換の真っ最中でありまます。会計上もいまだ厳しい寒さは続いておりますが、現在、助成金や会費収入に加えて多くのみなさまから「財政強化のため」の貴重な寄付をお寄せいただき暖かい心持ちになっております。誠にありがたいこととさせていただきます。

助成金収入や受託事業収入等の完済を受ける平成19年度開始時期まではしばらく冬の時代が続きます。地域活動費は地域ごとの活動状況や現在残高などを考慮し、キャッシュフローを見ながらお支払いをしております。早くこの時期を乗り切り、安定した経済状況にするため、各地域の世話人のみなさまには運営に関し引き続き経費の緊縮と収益を上げていただきますよう、また会員のみなさまには会員拡大のためご協力をお願いいたします。

太陽のありがたさを身にしみているPV設置者にとり、冬至を越え

て日一日と日脚が伸びるように、一陽来復を願いながら……今年もよろしくお願いいたします。

(財政部座長 関沢ひろみ)

相談室

12月の発電量を計測した結果、06年の年間総発電量が出ました。過去5年間を見ても最低の発電量だと思われている方が多いのでは(関東地方では)? 各地のみなさんはいかがですか? これが機器のトラブルでなく、天候によるものであることを願っています。

相談室ではこれらの問題に対応すべく相談員のレベルアップを図るため、11月18日に産総研つくば研究所で相談員研修会を開催しました(詳細は本誌P.3参照)。このような研鑽を積みながら会員各位の期待に応えられる相談室をめざしています。

今年度、相談員の充実を図ってききましたが、以下の方々を相談員として理事会の承認を得ましたのでご紹介いたします。よろしくお願いいたします。

◎主任相談員：本多一民、湯浅直樹、平間稔夫、國井範彰

◎地域相談員：小西健司(茨城)、石渡饒一(栃木)、松本岩樹(群馬)、松田廣行(埼玉)、岸本次夫(千葉)、川原山浩一(東京)、古川元(東京)、横谷公雄(神奈川)、渡辺正己(山梨)、森純男(静岡)、南里弘(関西)、都筑修三(九州)、吉田幸二(中部)

※()内は担当地域

(相談室座長 國井範彰)

PV-Green事業部

(1)参加状況

～市民共同発電所も参加!～
設備認定を受け、PV-Greenに参加する発電所の数は、11月末時点で501発電所に上りました。この内、住宅用太陽光発電所が499、市民共同発電所が1、佐賀県庁の発電所が1です。市民共同発電所は大阪

府内の保育園に発電所を設置しているぽっぽおひさま発電所、うれしい拡がりですね。

(2)グリーン電力発電電力量認証状況
参加発電所の内、273発電所の1年間の発電実績が認められ、電力量認証が行われました。認証済みグリーン電力発電電力量は、459,014kWhpvgです。

(3)PVグリーン電力証書売上金の交付
いよいよ参加発電所へ交付を開始しました! 参加発電所の振込手数料負担がなるべく少なく、不公平にならないよう試行錯誤の上、イーバンクを利用することにしました。早期に申し込まれたみなさんには大変お待たせしてしまいましたが、準備がようやく整いました! 証書の売上金の交付は、申込順に、全量売れた分から実施します。証書としてグリーン電力が売れるまでお待ちいただきますが、順番通りに交付が行われますので、どうぞご理解ください。

「〇〇産の太陽光」という地域指定で証書が売れる場合、地域内の申し込みが早い発電所から販売されます。お住まいの地域指定で証書が活用されると、それだけ早く交付も行われます。例えば香川県の参加発電所のグリーン電力は、「エネルギー&エコロジー博覧会2007 in 四国」で2,000kWhpvgの購入が決まっており、約1年半分の発電電力量分が先行予約されています。地域の環境イベントでのPVグリーン電力証書の活用を呼びかけましょう!

(4)PV-Green基金

基金の預かり分は現在390,337円。この内、証書売上にかかる基金預かり金が2005年度分73,040円、06年度分(1月末時点)97,500円となっています。初代および05年度第1期の参加発電所からの基金参加額は219,797円となっています。総会に向けてPV-Green基金のしくみの具体化を検討中です。
(事務局 手塚智子)

組織部

これまで2回の部会と組織担当者会議を開催し、(1)全国組織への発展をめざして組織対策上のセンターの役割を担うこと(2)具体的な運動提起として「ポストイン」活動を重視し、会員各位に協力をお願いしていくことを決めました。

今回はそのポストイン活動について、再度お願いします。いまPV設置者は30万件に迫ろうという勢いで増え続けています。しかし私たちのPV-Net会員は僅か1600名、そして設置者の把握も30万から見れば30分の1程度に過ぎません。組織を大きくしようとするとき、広く組織の存在を知らせること、そして組織拡大を意識して個別に働きかけること、この2つが欠かせない要素です。

ポストインは会の存在を知らせると同時に設置者を把握することができ、大変有効な活動と言えます。事務局に上げていただいたポストイン名簿は、今度から地域に返して活用してもらおうことにしました。地域で組織活動をする上でこの名簿は宝になるはずです。また、各地域1名の組織担当者を決めていただいておりますが、その方を中心に設置者名簿の管理やポストイン活動の旗振り役などをお願いしています。

会員のみなさんが2人でも3人でも、ほんの少しでも結構、屋根を見たら住所・氏名・電話など調べて事務局に上げてください。少しずつでもみんなの力が集まれば大きくなります。「誰でもできるポストイン活動～PV設置者の名簿は地域交流会の宝～」を合言葉に次の総会までには数万の設置者名簿ができるようよう頑張ろうではありませんか。

(組織部座長 田中東紀男)

ご寄付について

会報第12号誌面でのご報告続報です。昨秋、会員のみなさん宛にお送りしました「財政基盤強化のための寄付のお願いについて」に対し、1月31日現在、232名の方から、合計3,754,776円のご協力をいただいております。活動へのご支援とご理解に、厚く感謝申し上げます。PV-Netは、活動の目的を達成するための事業を通じた収入増と、財源の多様化に取り組んでいます。今後とも、温かい目で見守ってくださいませますようお願いいたします。

～ご寄付をいただいたみなさん(順不同)～

- 佐藤成男 戸井田利夫 柳野一雄 久保宏 須田春海 近野雅晴 藤澤義晴 嶋田結一 番場祥充 河野勝泰 川本健治 北田良孝 藤井石根 荒井務 渡辺邦夫 前田誠一 内山明夫 瀬川正臣 武田善明 牧野榮行 鈴木保 市川加代子 日江井榮二郎 岸本康二 手島肇 植見博 福永永康 松岡洋右 山田倫 河島鏡子 橋本満安 村田茂 鈴木昭男 種村勝平 美浦匡彦 工藤久 早川博文 塩瀬新一 木谷光美 長田仁 田中東紀男 秋山眞紗代 岡本俊和 園井範彰 湯浅直樹 野田勝彦 小関光二 江口嘉一 池田渉 川原山浩一 大田茂 小崎聡 小室源逸 萩野暁 新井富美男 服部秀夫 三代川正秀 津村良一 早乙女定次 金子精成 富塚敏夫 飯塚隆一 白井信 見方平 大石浩準 長野文男 萩原文雄 竹下恭子 橋本武昭 福田恵子 住谷勉夫 田光平 坪原賢二 山崎嶺子 吉住昭 小笠原美知子 星野宏行 山崎雅司 柳瀬仁茂 坂本敦一 奥山孝志 桜井榮一郎 島海猛 吉野武彦 緒方静 有馬侃 美恵子 長徹郎 横山和彦 古川元 永木猛弘 広井功 菊地眞幸 嶋志田敬 関口博 田中晃三 田中三男 永井康博 高橋秀典 森田康 金丸吉夫 東學 山本博 大友 植松克己 吉永光伸 喜多正雄 工藤幸治 田村初江 大畑庄司 川豊 山梨雄 大木康子 白石孝昭 藤塚咲美 平本貞夫 竹内きみ 増田善信 北川卯三郎 岡武宏 勝又良樹 山田幹雄 小林良二 斎藤茂美 山岸三雄 星野力 辻内秀敏 佐藤朝勝 山崎靖男 飯村民朗 吉田仁久 長沼真澄 小川俊一 山本晴男 金指健司 識野晃一 井上清 照井武彦 吉田幸二 黒澤貴一 鈴木宏昌 山本晴吉 本間隆 小村賢一 美珠 佐藤俊夫 神谷典史 竹内治兵衛 家部勇二郎 安永茂樹 石塚猛 阿部守也 山本淳 粕谷文雅 中村勝彦・眞知 中田芳雄・中田タカ子 清水和裕 岸田俊雄 望月徳宝 林三男 常慶忠一 藤田一幸 山中喜久夫 青山二三子 深沢三郎 棚橋秀伍 関目実 本村正光 和氣忠永 福井敬朗 萩野仁之 市吉忠三郎 辰谷直子 釘宮博明 土井敏彦 中溝俊男 杉井隆造 安松俊秀 加藤寛二 菊池重行 松田剛正

—— その他、匿名の方々があられます。厚く御礼申し上げます。

会員更新のお願い

特定非営利活動(NPO)法人太陽光発電所ネットワークは、日本で唯一の、発電所の全国ネットワークとして益々の意義ある活動を展開するにはみなさんの会員更新がとても重要です。頂戴しました会費は、太陽光発電を始めとする自然エネルギー普及促進活動のための、重要な財源となります。なにとぞ、会員更新にご協力をお願いします。毎年の会費納入の手間を省くことができる自動振替・払込の手続きも受け付けています。会員更新がまだお済みでない方は、下記の郵便振替口座へ年会費3,000円をお振込みください。どうぞ、よろしくお願ひします。以下の会費納入時期は、会報をお送りする封筒の宛名シールに「会費有効期限」として記載されていますのでご確認ください。

●入会の区分と会費納入時期、自動振替・払込の申込みについて

区分	入会時期	会費納入時期	自動振替・払込の申込み	べ切
前期	5/1~10/31	~5/31	4/10	(べ切を過ぎた場合、今年度会費は振込が必要)
後期	11/1~4/30	~11/30	10/10	

*会費お支払いは、下記郵便振替口座に一本化し、銀行振込口座への受付は終了しました。

○郵便振替：00190-7-758332

○名義：太陽光発電所ネットワーク

ペンギンのはばたき

◆無農薬・天日干しのお米、畑で取れた野菜や果物の数々、春を知らせる梅の花。文京区湯島にあるPV-Net事務局は、会員さんが見つけた作物が集まる、まさに都会の畑です。狭いですが、居心地良い場所ですので、みなさん、是非一度足をお運びください。(い)
◆晴れの国おかやまへ行くことに。桃太郎(古備彦彦)に倒された温羅王の鬼ノ

城、温泉、大原美術館、ジャージー乳、桃にブドウにままかりに、物語とおいしいもの盛り沢山の土地、晴れの国で、PV-Netの芽が育つのはこれから。(て)
◆ボランティアは自らやるから楽しい。互助を得ればもっと楽しい。PV-Netは生みの苦しみがあっても自力で運営するから楽しく、交流は楽しみを増す。(都)

Editor's Notes



特定非営利活動法人
太陽光発電所ネットワーク(略称:PV-Net)
〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10
湯島ビル202号室

〈交通のご案内〉

- ①JR/地下鉄御茶ノ水駅「聖橋口(秋葉原駅側)」より徒歩5分
 - ②地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より徒歩5分
- TEL 03-5805-3577
FAX 03-5805-3588
URL : www.greenenergy.jp
E-mail : info@greenenergy.jp

- <2006年10月>
- 1日 静岡地域交流会世話人会
 - 4日 PV-Green事業部会
 - 6日 群馬地域交流会世話人会
 - 7日 東松山市環境フェア出席(埼玉地域交流会)
 - 8日 兵庫地域交流会立ち上げフォーラム
 - 11日 「再生可能エネルギー2006国際会議」併設展「第1回新エネルギー世界展示会」<光と水のエネルギー広場>として出席(～13日)
 - 14日 第3回理事会
 - 千葉地域交流会世話人会
 - 普及広報部会
 - 「太陽光発電セミナー」(共催：ひむか・おひさま共和国)講演及び太陽光発電相談会
 - 16日 事務局休み
 - 17日 神奈川地域交流会近隣グループ(金沢地区)
 - 19日 中部地域交流会世話人会
 - 「第9回環境リサイクルフェア」出席(山梨地域交流会)
 - 「しずおか環境・森林フェア」出席(～22日、静岡地域交流会)
 - 20日 「しずおか新エネルギー推進協議会セミナー」にて取組事例発表
 - 21日 「川越産直博覧会」出席(～22日、埼玉地域交流会、「川越市環境展 in さんばく」"みんなの環境スクールにて講演「お日さまの光で電気ができる秘密をお話する「みんなであらう「太陽光発電」」)
 - 22日 越谷市環境フェア出席(埼玉地域交流会)
 - 24日 山梨地域交流会世話人会
 - 28日 PV-Netフォーラム栃木(栃木地域交流会)
 - PV-Netフォーラム in 多治見(中部地域交流会)
 - 29日 PV-Green事業説明会(長崎地域交流会)
 - 神奈川地域交流会近隣グループ(相模原地区)
 - 事務局休み

- <11月>
- 2日 PV-Green事業部会
 - 群馬地域交流会世話人会
 - 4日 埼玉地域交流会世話人会
 - 5日 「第23回国分寺まつり」出席(東京地域交流会)
 - 6日 組織部会
 - 11日 「ライフスタイルフォーラム2006」出席(～12日、主催：ライフスタイルフォーラム実行委員会・環境省)
 - 千葉地域交流会世話人会
 - 群馬地域交流会世話人会
 - 15日 「新エネルギーフォーラム」出席(静岡地域交流会)
 - 16日 「宮崎県地球温暖化防止活動推進フェスティバル」出席(～19日、宮崎地域交流会：ペットボトルを利用したミニソーラーカー親子教室)
 - 静岡地域交流会近隣グループ(沼津地区)
 - 19日 神奈川地域交流会近隣グループ(県央地区)
 - 「甲府市第9回環境リサイクルフェア」出席(山梨地域交流会)
 - 栃木地域交流会世話人会
 - 21日 神奈川地域交流会近隣グループ(金沢地区)
 - 23日 「エコテック2006」出席(宮崎地域交流会：ペットボトルを利用したミニソーラーカー親子教室/午前・午後の2回)
 - 「都城市環境まつり」出席(宮崎地域交流会：ミニソーラーカー親子教室)
 - 東京地域交流会日野グループ勉強会
 - 東京地域交流会世話人会(臨時)
 - 25日 埼玉地域交流会世話人会
 - 26日 草津温泉温度差発電湯けむりバスツアー in 群馬(～27日、群馬地域交流会)
 - 第1回会員巡り(関西地域交流会)

- <12月>
- 1日 普及広報部会
 - 2日 全国発電所長・大集合イベント「太陽光発電を通じた省エネルギーライフスタイルを拡げよう！」開催
 - 神奈川地域交流会近隣グループ(保土ヶ谷地区)
 - 事務局休み
 - 10日 出前講座「ミニソーラーカー親子製作教室」午前・午後の2回(宮崎地域交流会)
 - 「せたがや・環境行動DAY」にて世田谷区太陽光発電所のMAPを展示(東京地域交流会)
 - 14日 「エコプロダクツ2006」出席(～16日)
 - 山梨地域交流会世話人会
 - 関西地域交流会世話人会
 - 静岡地域交流会世話人会
 - 16日 佐賀「ユニーク発電所コンテスト」予選会「教えてください！わが家の太陽光発電エピソード」(～17日、佐賀地域交流会)
 - 千葉地域交流会世話人会
 - 19日 神奈川地域交流会近隣グループ(金沢地区)
 - 21日 「PV-Net News」第13号編集会議
 - 23日 第2回会員巡り(関西地域交流会)
 - 神奈川地域交流会近隣グループ(相模原地区)
 - 事務局冬休み(～1/4)

- <2007年1月>
- 6日 埼玉地域交流会世話人会
 - 7日 日本初の「大人の成人式」協賛出席(静岡地域交流会)
 - 11日 神奈川地域交流会世話人会
 - 12日 普及広報部会
 - 13日 関西地域交流会世話人会
 - ハッポウ農産物太陽光発電所完成式(山梨地域交流会)
 - 千葉地域交流会世話人会
 - 15日 PV-Green事業部会
 - 16日 東京地域交流会世話人会
 - 21日 佐賀「ユニーク発電所コンテスト」本大会(佐賀地域交流会)
 - 27日 第4回理事会
 - 28日 沼津市フリーマーケット出席(静岡地域交流会)
 - 「自然エネルギーフォーラム2007 in まつど」出席(千葉地域交流会)
 - 「ソーラー発電なんでも相談会 in ひらつか」出席(神奈川地域交流会/後援：平塚市、藤沢市)
 - 29日 事務局休み